

令和元年度

# 教育委員会事務の点検及び評価報告書

(平成30年度事務事業対象)

令和元年9月

長門市教育委員会

## 目 次

はじめに	1
教育委員会の活動状況	2
教育委員会の活動状況について	2
教育委員会事務の点検及び評価制度	5
1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の 点検及び評価の実施について	5
2 長門市教育委員会の権限に属する事務の 管理及び執行の状況の点検及び評価について	5
3 点検及び評価の対象事業について	8
4 有識者の総括的な意見	10
5 各事務事業の点検及び評価の結果	13

## はじめに

---

長門市教育委員会では、平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間を計画期間とする「長門市教育振興基本計画」を策定し、中長期的な視点から教育の充実に向けた取組を推進してきました。平成 29 年 3 月には、これまでの成果や課題の検証を踏まえつつ、国及び県の教育振興計画を参酌し、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年間を計画期間とする「第 2 期長門市教育振興基本計画」を新たに策定し、更なる教育の充実に取り組んでいます。

この計画は、学校教育や社会教育におけるこれまでの取組を基本的に継承し、本市における教育振興に必要な施策を体系化しています。そして、基本理念を「生涯を通じて自らを磨き、ともに高め、『知』をはぐくむ」とし、教育をめぐる家庭・地域・学校・行政の各主体が密に連携しながら、それぞれの立場で教育の振興に努め、社会全体で教育に取り組むものとしています。

平成 26 年には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）が改正され、地方公共団体の長は、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めることが義務付けられました。本市では平成 27 年度に「長門市教育大綱」を策定し、「長門を愛し、故郷を誇れる子を育む」を大綱推進の力点として、コミュニティ・スクール、地域協育ネットの活動を充実させ、地域総がかりの教育を推進しています。

また、平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、すべての教育委員会は、「毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表しなければならない」こととされました。

そこで、市教育委員会では、法の規定に基づき、効果的な教育行政を推進するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、市教育委員会が実施した平成 30 年度事務事業のうち、主要な事務事業を対象に市教育委員会自らが点検及び評価を行い、学識経験者等の意見をいただき、報告書としてまとめました。

## 教育委員会の活動状況

### 教育委員会の活動状況について

#### (1) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月第4火曜日に「定例会」を開催し、必要に応じて「臨時会」を開催することとしています。平成30年度は、次のとおり会議を開催しました。

①定例会・・・・・・・・・・12回

②臨時会・・・・・・・・・・1回

#### (2) 教育委員会での審議及び報告

教育委員会会議では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条に定める事務（同法第26条及び「長門市教育委員会所管事務委任規則」（平成17年長門市教育委員会規則第5号）の規定に基づき、教育長に委任された事務を含む。）について、議案審議及び報告等を行いました。

#### 【付議事件等】（平成30年4月～平成31年3月）

区分	内 容	件数
議 案	教育行政の運営に関する一般方針を決定すること	3
	規則及び規程の制定または改廃に関すること	5
	議会の議決を経るべき事件の議案に関すること	3
	学校その他の教育機関の設置又は廃止に関すること	1
	人事に関すること	3
	附属機関等の委員等の委嘱等に関すること	6
	通学区域に関すること	—
	県費負担教職員の任免その他の進退の内申に関すること	1
	その他	3
報 告		8
協 議		5

教育委員会会議の活性化のために、次のことに継続して取り組みました。

- ①会議録の承認・・・教育委員及び事務局職員の共通認識を図り、発言内容の確認のために、教育委員会の承認を受ける。
- ②教育長からの報告・・・教育長が会議、研修等の出席に伴う報告や事務事業の執行状況の報告を行う。
- ③意見交換の実施・・・教育委員会会議の終了後、市内外の教育の課題について、タイムリーに意見交換する。

### (3) 総合教育会議の開催

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4の規定に基づき、市長と教育委員会により構成される総合教育会議が設置されています。これにより、市長が教育行政に果たす責任や役割が明確になるとともに、市長が公の場で教育政策について議論することが可能になりました。また、市長と教育委員会が協議・調整することにより、両者が教育政策の方向性を共有し、一致して執行にあたることが可能になりました。

平成30年度は、次のとおり総合教育会議を開催しました。

- ・第1回 平成30年7月24日

### (4) 教育長及び教育委員の活動

教育長及び教育委員の各種行事への参加状況は次のとおりです。

#### ①幼稚園・小中学校研修訪問

月日	学校名	月日	学校名	月日	学校名
7/5	通小学校	6/27	浅田小学校	10/31	深川中学校
6/25	仙崎小学校	10/17	日置小学校	7/9	三隅中学校
11/14	深川小学校	11/6	神田小学校	11/5	日置中学校
7/11	向陽小学校	11/7	油谷小学校	11/13	菱海中学校
9/19	俵山小学校	7/4	向津具小学校	10/25	宗頭幼稚園
7/10	明倫小学校	11/9	仙崎中学校		

## ②研修会等

- ・山口県都市教育長会議 平成30年4月17日
- ・夏季山口県都市教育長会議 平成30年7月12日
- ・山口県市教育委員会協議会総会 平成30年4月17日
- ・山口県市町教育委員会委員研修会議 平成30年4月17日
- ・全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会  
平成30年5月16日～18日
- ・山口県市教育委員会協議会研修会 平成30年10月4日
- ・中国地区都市教育長会定期総会並びに研究協議会  
平成30年10月18日～19日
- ・市町村教育委員研究協議会  
平成30年11月21日～22日、平成31年1月23日

## ③式典

- ・長門市立小学校入学式 平成30年4月9日
- ・長門市立中学校入学式 平成30年4月9日
- ・長門市成人式 平成31年1月3日
- ・長門市立中学校卒業証書授与式 平成31年3月9日
- ・長門市立小学校卒業証書授与式 平成31年3月20日

## 教育委員会事務の点検及び評価制度

---

### 1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

市民に対する教育行政の説明責任を果たすことによって、市民の理解と信頼性の向上を図るとともに、今後重点化しなければならない分野を明確にすることにより、市民が求める質の高い教育を提供していくことを目的として「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施します。

#### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律《抜粋》

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2 長門市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

#### (1) 点検及び評価の対象

##### ①対象期間

平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）

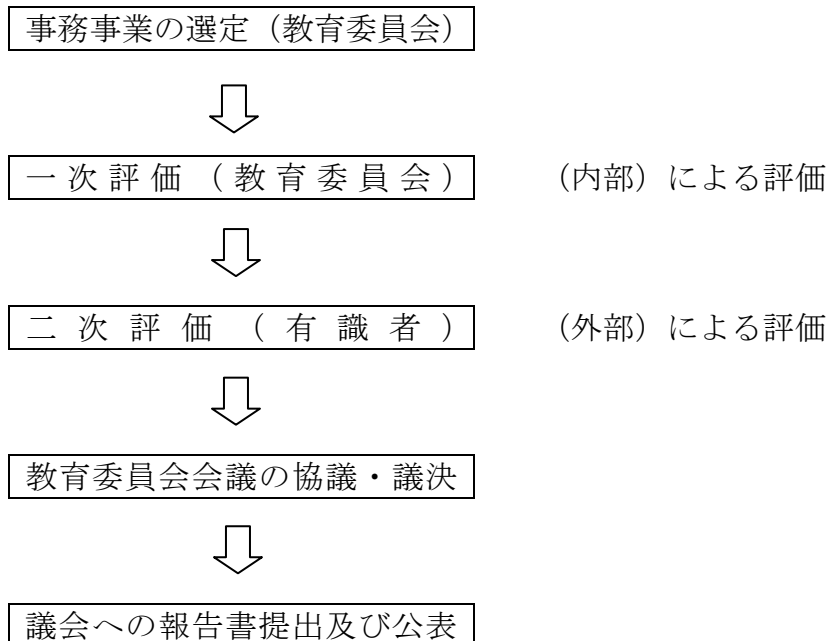
##### ②対象事務

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に規定されている教育委員会の権限に属する事務（市長部局において補助執行している事務を含む。）及び市長の権限に属する事務のうち教育委員会事務局において補助執行している事務

#### (2) 点検及び評価の実施方法

「第 2 期長門市教育振興基本計画」に定める基本理念と基本目標に基づき、具体的かつ総合的に施策を推進するために策定した「平成 30 年度長門市教育施策方針」に定める事務事業の執行状況を点検し、これを評価する方法により実施しました。

(3) 点検及び評価の流れ



(4) 有識者の知見の活用について

事務事業の点検及び評価の客観性を確保し、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、事務事業の点検及び評価に関する有識者(以下「有識者」という。)を置き、教育委員会が行った事務事業の点検及び評価の結果について、ご意見をいただきました。

○令和元年度の有識者は次のとおりです。

- ・重田 秀之 (元小学校長)
- ・山根 彰 (深川中学校 PTA 副会長)
- ・石川 奈緒美 (元明倫小学校育友会役員)
- ・松尾 茂子 (長門市男女共同参画審議会委員)
- ・木藤 鈴江 (元長門市家庭児童相談員)

○令和元年度の有識者による会議の状況は次のとおりです。

【開催場所：いずれも教育委員会別館会議室】

第1回会議 令和元年6月18日(火)13時30分～ 各事業の説明等

第2回会議 令和元年7月10日(水)13時15分～ 質疑応答、現地視察

視察先 15 学校図書館支援員配置事業(神田小学校)

16 教員業務アシスタント配置事業(仙崎中学校)

18 地域連携アシスタント配置事業(仙崎中学校)

35 放課後子ども教室推進事業(向陽小学校放課後子ども教室)

第3回会議 令和元年8月9日(金)13時30分～ 評価、意見等



長門市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価実施要綱

平成 22 年 4 月 1 日

教育委員会要綱第 4 号

(改正 平成 27 年 3 月 23 日教育委員会要綱第 6 号)

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号。以下「法」という。）第 26 条第 1 項の規定により行う教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第 2 条 点検及び評価の対象は、長門市教育委員会教育行政施策方針に定められた施策を推進する事務事業のうちから、教育委員会が選択したもの（以下「事務事業」という。）とする。

(点検及び評価の実施)

第 3 条 教育委員会は、当該事務事業を企画立案し遂行する立場から、毎年度、事業の必要性、効率性、有効性その他の事項を視点として、点検及び評価を行う。

(点検及び評価に関する有識者)

第 4 条 点検及び評価を行うにあたり、客観性を確保するため、事務事業の点検及び評価に関する有識者（以下「有識者」という。）を置き、教育に関し学識経験を有する者等の知見の活用を図る。

2 有識者は、教育委員会の求めに応じ、点検及び評価について意見を述べるものとする。

3 有識者は 5 人以内とし、教育に関し学識経験を有する者、教育に関し優れた識見を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

4 有識者の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠の者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 有識者は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(市議会への報告等)

第 5 条 点検及び評価の結果は、毎年市議会に報告するものとする。

2 前項の報告の後に、点検及び評価の結果を市民に対し公表するものとする。

(補則)

第 6 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 27 年教育委員会要綱第 6 号)

この要綱は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

### 3 点検及び評価の対象事業について

基本理念	基本目標	施策	事務事業	番号
生涯を通じて自らを磨き、ともに高め、「知」をはぐくむ	子どもたちの安全・安心を確保するとともに、質の高い教育環境を整備します	安全・安心な教育を支える環境の整備	学校施設改修事業	1
			学校ブロック塀改修事業	2
			学校空調設備整備事業	3
			学校施設解体事業	4
			学校給食センター運営管理事業	5
			学校統廃合事業	6
			通学支援事業	7
			いじめ問題等対策事業	8
			不登校の未然防止に向けた専門家派遣事業	9
			教育支援センター事業	10
			要・準要保護児童生徒就学援助事業	11
		質の高い教育に対応するための教職員の指導体制と教育環境の充実	学校教育情報化事業	12
			学校教育研究大会事業	13
			研究指定校補助事業	14
			学校図書館支援員配置事業	15
			教員業務アシスタント配置事業	16
		地域総がかりで子どもたちを育てる環境の整備	コミュニティ・スクール推進事業	17
			地域連携アシスタント配置事業	18
			地域協育ネット事業	19

基本理念	基本目標	施策	事務事業	番号
生涯を通じて自らを磨き、ともに高め、「知」をはぐくむ	子どもたちの個性を大切にしながら「生きる力」をはぐくみます	「確かな学力」を身につけるための教育内容・方法の充実	「確かな学力」育成サポート事業	20
			外国語指導助手導入事業	21
		子どもの発達段階に応じた豊かな心と健やかな体の育成	キャリア教育推進事業	22
		特別なニーズに対応した教育の推進	教育支援委員会事業	23
			防災教育推進事業	24
			中学生海外派遣事業	25
	社会全体で、生涯学習の理念に基づく取組を推進します	いつでもどこでも学べる機会の充実	成人式開催事業	26
			公民館指定管理事業	27
			図書館充実事業	28
			スポーツ教室・健康医学講習会開催事業	29
			長門市体育協会補助金交付事業	30
			ウルトラマラソン開催事業	31
			我がまちのスポーツ推進事業	32
			地域スポーツ人口拡大推進事業	33
			人権教育促進事業	34
		家庭・地域・学校の連携を強化し、学習成果を生かす協働の促進	放課後子ども教室推進事業	35
			家庭教育支援事業	36
			地域協育ネット事業（再掲）	(19)
		次世代への地域文化の継承	文化財保護・活用事業	37
伝統文化継承事業	38			

#### 4 有識者の総括的な意見

事務事業の点検及び評価を行うことにより、教育行政に対する市民の理解と信頼性の向上を図りながら、質の高い教育を提供することを目的としています。

有識者からは、教育委員会が行った事務事業の点検及び評価の結果についてだけでなく、教育行政全般についても、次のとおりご意見をいただきました。

##### 【報告書について】

- 報告書を読めば、それぞれの事業の概要はつかむことはできるが、やはり実際に訪問し、担当者から話を聞かないと分からない部分も多い。視察場所を増やすなど、より良い外部評価にするために、改善して欲しい。
- 報告書は丁寧にまとめられているので、知らない事業も大体把握できた。
- 現地視察を行った事業は、とても分かりやすく、現場の大変さを痛感した。
- 昨年に続き評価に携わらせていただいたが、評価対象の事業も増え、今年も評価に苦労した。報告書は事業の内容が端的にまとめられていた。
- 各事業どれも丁寧にまとめられていると思う。報告書の各事務事業の内容の項目数に対し、期間が不足していたように思う。
- 教育関係の専門知識も少なく、書面だけでは点検・評価が難しいところがあった。
- この資料だけで評価するのはなかなか難しい。

##### 【教育行政について】

- 本市の子どもの数は、年々減少してきているように感じている。統計資料等から10年後、20年後を予測し、今後の学校教育全体の施策を立てていくことが急務であると感じる。
- 教員の勤務状況をブラック企業に例える人もいる。働き方改革と言いながらも、勤務状況は以前とあまり変わっていないように感じている。新教育課程の実施により、小学校では7時間授業も実施されている。人員の配置も大切だが、土曜授業や夏休みの削減などで、教員の放課後の時間を確保していくことも必要ではないかと思う。
- 不登校等家庭が抱えている問題は様々である。SOSが出せる環境であればよいが、出すことができない家庭に対し、地域と学校がどのように関わっていけばよいか課題がある。守秘義務も含め、各機関との情報共有をしつつ、支援を望む。
- 高齢化が進む中で、地域の高齢者を引き込むイベントやスポーツ等わか

りやすく発信できたらよいと思う。

- 例えば教員業務アシスタント配置事業と地域連携アシスタント配置事業は、一つに統合して取組をしたほうが良いのではと思った。そのほかにも統合したらどうかと思うものがあった。
- 長門市開催のイベント(スポーツ等)に対して市民協働が必要だと思う。
- 子どもたちの健全な育成の為に、保護者と地域等が連携して人材育成に取り組んでいく必要があると思う。
- 地域で子どもたちへの関わりを持つことができる行事が増えていっていると思う。地域全体で子どもたちを見守り育てていくことで、人間力を身につけてほしい。



## 5 各事務事業の点検及び評価の結果

### (1) 施策

施策	取組状況	番号
安全・安心な教育を支える環境の整備	老朽化した学校施設を計画的に改修・解体している。また、空調整備により教育環境の向上を図る。ソフト面では、通学支援のための各種事業や、児童生徒の指導上の諸問題の未然防止や早期解決及び安全確保に資するための事業に取り組んでいる。	1-11
質の高い教育に対応するための教職員の指導体制と教育環境の充実	小・中学校の ICT 機器を計画的に更新し、情報教育環境を充実させることにより、情報教育の向上と円滑な推進を図っている。また、学校教育研究大会や研究指定校補助事業により、教職員の指導体制の充実を図っている。	12-16
地域総がかりで子どもたちを育てる環境の整備	地域協育ネットの推進により、家庭・地域・学校が連携した活動に取り組んでおり、地域総がかりで子どもを育てる気運も高まり、地域の活性化にもつながっている。	17-19
「確かな学力」を身につけるための教育内容・方法の充実	学力向上に向け、授業の充実支援のため、先進校視察による校内研修体制の充実を図っている。また、ALT の活用により、教員の指導力向上及び児童生徒の言語活動の充実に寄与している。	20-21
子どもの発達段階に応じた豊かな心と健やかな体の育成	「長門サイエンスフェスティバル」の開催により、子どもたちの好奇心を育てるとともに、地域産業や自然に触れること、ボランティアとして関わることを通して成長を促している。	22
特別なニーズに対応した教育の推進	異文化に触れたり現地の人々と交流したりする機会を提供するために、中学生を海外へ派遣している。また、教育支援委員会では、専門家の意見をもとに、児童生徒のよりよい就学に努めている。	23-25
いつでもどこでも学べる機会の充実	人権教育セミナー及びスポーツ教室等の開催や図書館・公民館事業の充実により、市民に様々な生涯学習の機会を提供している。また、スポーツを普及・指導する団体等を活用し、誰もがスポーツを楽しんだり、学んだりできる環境の整備に努めている。	26-34
家庭・地域・学校の連携を強化し、学習成果を生かす協働の促進	放課後の子どもの居場所づくりのため、小規模小学校において放課後子ども教室を開設し、地域の方々の参画を得て、様々な学習や体験学習を行っている。また、家庭教育学級では、家庭の教育機能の向上のための支援を行っている。	35-36 (19)
次世代への地域文化の継承	村田清風記念館では、維新 150 年の特別講演会を実施し盛況であった。ながと歴史民俗資料室では、企画展を開催し、市民の地域文化に対する理解を進めるとともに、文化財の保護や伝承について取り組んでいる。	37-38

(2) 各事務事業

番 号	1	主 管 課	教育総務課
事 業 名	学校施設改修事業		
施 策	安全・安心な教育を支える環境の整備		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要及び目標	児童生徒の学習・生活の場の安全を確保するため、老朽化した学校施設について計画的に改修を行い、児童生徒が安全で安心して学習に取り組むことができる学校環境の整備を図る。		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	繰越許予算 98,264,000 円 (89,296,400 円) 現年度予算 13,294,000 円 (12,157,560 円)	現年度予算 125,191,000 円 (123,274,200 円)	現年度予算 112,826,000 円
執 行 率	90.9 %	98.5 %	—
評 価  (取組状況及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>学校施設の老朽化に伴い、向陽小学校の校舎及び屋内運動場のトイレについて、和式便器から洋式便器への取り替え、配管、床、壁、天井等の全面的な改修工事を実施し、学校環境の整備を図った。</p> <p>また、菱海中学校屋内運動場について、屋根材の腐食を原因とする雨漏りにより授業や部活に支障をきたしていたため、屋根の全面的な改修を実施した。三隅中学校屋内運動場についても菱海中学校屋内運動場と同様の状況のため、令和元年度全面改修に向けて実施設計業務を行った。</p> <p>1 小学校施設改修事業 (支出額 46,209,720 円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向陽小学校トイレ改修工事 46,209,720 円</li> </ul> <p>2 中学校施設改修事業 (支出額 77,064,480 円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・菱海中学校屋内運動場屋根改修工事 75,250,080 円</li> <li>・三隅中学校屋内運動場屋根改修工事実施設計業務 1,814,400 円</li> </ul>		



<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>本市 16 校の学校施設 49 施設のうち約 5 割にあたる 27 施設が、建築後 30 年以上を経過するなど老朽化が進んでおり、その対策として現学校施設の長寿命化を図り、ライフサイクルコストの削減及び施設の有効活用と、効率的かつ円滑な更新が求められている。</p> <p>そのため、令和元年度に、学校施設の現状を踏まえた劣化診断・施設評価を行い、ライフサイクルコスト・保全優先度を勘案した「長門市学校施設長寿命化計画」を策定し、計画的に学校改修を実施していく。</p> <p>また、三隅中学校屋内運動場は、屋根の傷みが広範囲に及んでおり、部分的な改修では解決が困難なため、令和元年度において全面的な改修を行う。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 学校施設改修事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「長門市学校施設長寿命化計画」を策定されるということだが、コスト優先にならないようお願いしたい。何よりも児童生徒の安全・安心な教育環境の整備を最優先にしていきたい。</li> <li>・学校施設は子どもたちが毎日利用しているものであり、より良い環境のもと学習に取り組めるよう、安全点検や管理を徹底してほしい。</li> <li>・引き続き、環境整備をお願いする。</li> <li>・児童生徒の学習環境整備のため、計画的に改修をお願いしたい。</li> <li>・施設の老朽化が進んでいるため定期的な点検が必要だと思う。</li> </ul>
----------------	---

番号	2	主管課	教育総務課
事業名	学校ブロック塀改修事業		
施策	安全・安心な教育を支える環境の整備		
区分	<input type="checkbox"/> 継続	<input checked="" type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 完了
事業の概要及び目標	平成30年6月に発生した大阪府北部を震源とする地震による学校のブロック塀倒壊事故を受け、建築基準法に適合していないブロック塀について撤去・改修を行い、児童生徒の安全を図る。		
予算額 (決算額)	平成29年度	平成30年度	平成31年度(当初)
	—	現年度予算 12,221,820円 (7,158,780円) ※翌年度繰越明許費 (5,063,040円)	繰越明許予算 5,063,040円
執行率	—	100.0%	—
評価  (取組状況及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>建築基準法に適合していないブロック塀について緊急調査を行い、緊急に撤去・改修工事を行った。</p> <p>1 小学校ブロック塀改修事業(支出額 6,010,200円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・向陽小学校コンクリートブロック塀改修工事</li> <li>・俵山小学校プールコンクリートブロック塀改修工事</li> <li>・浅田小学校コンクリートブロック塀改修工事</li> <li>・日置小学校コンクリートブロック塀改修工事</li> <li>・向津具小学校ブロック塀撤去工事</li> </ul> <p>2 中学校ブロック塀改修事業(支出額 1,148,580円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仙崎中学校ソフトテニス壁打板及び給湯室裏ブロック塀撤去工事</li> <li>・深川中学校ソフトテニス壁打板ブロック塀撤去工事</li> <li>・三隅中学校ソフトテニス壁打板ブロック塀撤去工事</li> <li>・日置中学校焼却炉囲い塀改修工事</li> </ul>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>仙崎中学校及び深川中学校のソフトテニス壁打板設置工事については、平成30年度内に完了することができなかったことから、令和元年度5月に完了させた。</p> <p>通学路におけるブロック塀の危険個所の確認については、引き続き、保護者をはじめ、地域の見守り隊や、学校運営協議会など、地域の皆さんの協力をいただきながら、情報収集に努めていきたい。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 学校ブロック塀改修事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の安全・安心のためにも早急に対応されたことは、とても良かったと思う。様々な自然災害に対して、今後も素早い対応が図られることをお願いしたい。</li> <li>・速やかにブロック塀の撤去、改修を行われたことはとても良かったと思う。これからも、危険箇所があれば、早急に対応していただきたい。</li> <li>・建築基準法に適合していないブロック塀が学校施設に設置してあったことは残念。単なる施工の問題なののでしょうか。児童生徒の安全確保のため引き続き対応をお願いします。</li> <li>・児童生徒の安全を第一に、今後も早急に撤去・改修をお願いしたい。</li> <li>・危険なので早急に対処されて良かったと思う。</li> </ul>
----------------	---

番 号	3	主 管 課	教育総務課
事 業 名	学校空調設備整備事業		
施 策	安全・安心な教育を支える環境の整備		
区 分	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>文部科学省の「学校環境衛生管理マニュアル」（平成30年度改訂版）によると、教室等の温度は、17℃以上、28℃以下であることが望ましいとされており、夏季における適切な教育環境を確保するため、普通教室等への空調設備の整備を行う。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成29年度	平成30年度	平成31年度(当初)
	—	現年度予算 634,572,000円 (21,060,000円) ※翌年度繰越明許費 (613,512,000円)	繰越明許予算 613,512,000円
執 行 率	—	100.0%	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>夏季における適切な教育環境を確保するため、市内全小・中学校の空調設備整備に係る実施設計を行った。</p> <p>1 空調設備整備事業（支出額 21,060,000円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校空調設備整備工事実施設計業務 13,392,000円 小学校 11校 普通教室等 90室</li> <li>・中学校空調設備整備工事実施設計業務 7,668,000円 中学校 5校 普通教室等 41室</li> </ul>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>空調設備導入後は、多額のランニングコストや維持管理経費が必要になるため、使用時間帯や温度設定、扇風機活用による適切で効率的な稼働等を定めたマニュアルを供用開始までに作成し、光熱費の節減に努めるとともに、定期的な点検により、機器の長期的かつ安定的な使用につなげ、維持管理コストの削減に努めていく。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 学校空調設備整備事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調設備の設置に早急に取り組まれたことはとても良かったと思う。今回は普通教室だけのようだが、図書室などにもぜひ設置していただきたい。</li> <li>・すべての学校に空調設備が整うことはとても喜ばしいことである。使用に関するマニュアルを徹底し、適切に維持管理してほしい。</li> <li>・空調設備について、今夏は間に合わない学校があると聞いているので、代替の方法で適切な環境の確保をお願いする。また、理科室などの特別教室には設置されていないケースもあると聞く。同様に適切に配慮をお願いする。</li> <li>・近年、全国的に夏季において猛暑日が続いているため、児童生徒に適切な教育環境を確保できるように、これからも整備していただきたい。また、普通教室以外の設備整備を検討していただきたい。</li> <li>・空調設備が整うことで、児童生徒が授業に集中できる環境になり安心である。維持管理費・光熱費のコスト削減も必要になってくるのでマニュアル作成は急務だと思う。</li> </ul>
----------------	--

番 号	4	主 管 課	教育総務課
事 業 名	学校施設解体事業		
施 策	安全・安心な教育を支える環境の整備		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>老朽化が著しく、市民及び市民の財産に損害を与える可能性がある建物について、長門市公共施設等総合管理計画に基づき、計画的に解体撤去を行う。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	13,667,000 円 (8,013,600 円)	66,545,000 円 (65,395,080 円)	12,271,000 円
執 行 率	58.6 %	98.3 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>旧大畑小学校は、校舎各階の天井及び床など、至る所で雨水進入が原因と思われる腐食・剥離・ゆがみ等が確認でき、日増しに危険性が高まってきたため、校舎やグラウンド内遊具等の解体撤去を行った。</p> <p>1 施設等解体撤去工事 ・旧大畑小学校解体工事 65,395,080 円</p>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>長門市公共施設等総合管理計画第一次アクションプランに基づき、老朽化などにより、継続利用や売り払いが困難で安全が確保できない教育施設（H29：旧油谷学校給食センター、H30：旧大畑小学校）を解体してきた。</p> <p>令和元年度は、施設の近隣住民に対し危険性のある旧三隅学校給食センターの解体を、計画どおり実施することとしている。</p> <p>残る施設についても、危険度等状況を把握しながら、計画に基づき、解体を進めていく。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 学校施設解体事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の統廃合に伴い、使っていない学校施設も増えてきている。そのまま放置するのではなく、まだ利用できる施設は様々な手段を使って再利用できるようにしていただきたい。</li> <li>・老朽化が著しい施設の解体撤去は必要である。撤去後の跡地については、地区住民と協議され、使いやすい環境にしていれば良いと思う。</li> <li>・当初早期の解体は難しいと聞いていたが、解体撤去で早期に危険を排除したことは良かったと思う。</li> <li>・全施設について老朽化の状況を確認し、安全確保に努めていただきたい。</li> <li>・危険性が高まってからの解体作業では取り掛かりが遅いと思う。</li> </ul>
----------------	--

番号	5	主管課	教育総務課
事業名	学校給食センター運営管理事業		
施策	安全・安心な教育を支える環境の整備		
区分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要及び目標	<p>長門市学校給食運営方針に基づき、長門市学校給食センターを中心に、学校給食の衛生管理の向上と高品質で安全・安心な給食の提供を図る。</p> <p>【施設】 長門市学校給食センター 対象：14校 日置学校給食センター 対象：2校</p> <p>【会議等】 学校給食運営委員会（各センター2回） 献立作成委員会（11回）、物資選定委員会（1回）</p>		
予算額 （決算額）	平成29年度	平成30年度	平成31年度（当初）
	215,654,000円 (211,870,163円)	225,340,000円 (219,283,906円)	225,775,000円
執行率	98.2%	97.3%	—
評価  〔取組状況 及び成果等〕	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>○給食事業</p> <p>1 給食数 長門市学校給食センター 2,240食（H29 2,290食） 日置学校給食センター 250食（H29 256食）</p> <p>2 給食日数 196日</p> <p>3 給食費 1食当たり小学校255円、中学校290円</p> <p>4 事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギーへの対応 <ul style="list-style-type: none"> <li>除去食・代替食 長門市学校給食センター 78人</li> <li>日置学校給食センター 10人</li> </ul> </li> <li>※H31.2 アレルギー対応食誤提供発生</li> <li>・食に関する指導目標の推進・・・3名の栄養教諭等で16校を担当</li> <li>・地産地消の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>地産地消率 全体 県内産 88.3%、市内産 56.0%</li> <li>長門 県内産 87.1%、市内産 49.5%</li> <li>日置 県内産 89.4%、市内産 62.4%</li> </ul> </li> <li>・施設見学会、試食会の開催 見学会7回 183人</li> <li>・ながと食の日（毎月1回実施）</li> <li>・長門市と下関市で「学校給食・くじら交流の日」を実施 H31.2.1</li> </ul> <p>○学校給食センター統廃合事業</p> <p>児童生徒数の減少等に伴う給食事業の効率的、効果的な運営を図るため、平成31年4月に日置学校給食センターを廃止し、長門市学校給食センターに統合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配膳施設改修工事（日置小学校、日置中学校）</li> <li>・食缶、常温コンテナ車、配送車購入</li> </ul>		

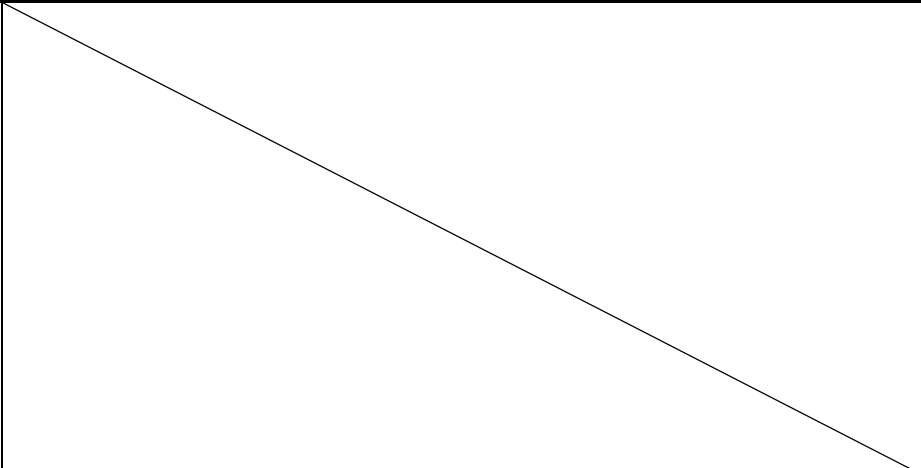


<p>課 題 と 今後の取組</p>	<p>アレルギー対応食誤提供事故直後には、再発防止のため体制の見直しを行い、納品時間の指定、確認用ファイルの配置（センター及び学校）など、複数で確実に確認を行う体制に改善した。食物アレルギー対応を要する児童生徒が増加する中、複雑かつ多様な対応が求められており、文部科学省の対応指針などを参考に、安全性を更に高めるための研究を行うとともに、職員の危機管理、衛生管理への意識を今以上に徹底し、安全で安心な学校給食の提供の継続に努める。</p> <p>また、平成 30 年度には県農林水産事務所・市農林課・JA 長門大津・生産団体等との連携により俵山人参の使用を開始した。引き続き、関係機関との連携を密にし、地産地消の取組を推進する。</p> <p>令和 3 年度から調理業務を民間委託するという方向で準備を進めており、今後は保護者をはじめとする関係者に理解を求めるとともに、委託に向けて必要な事務を遂行していく。</p>
------------------------	--

〔事業名〕 学校給食センター運営管理事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を愛する心の育成や安全・安心な食の提供のために、地産地消の取組が進んでいることはとても良いことだと思う。調理業務の民間委託については、コスト優先にならないか心配である。</li> <li>・食物アレルギーの対応は大変だと思うが、命に関わることなので、より一層の危機管理・衛生管理の徹底を望む。</li> <li>・食物アレルギー対応について、アレルギー対応を要する児童生徒とアレルギー対応食品は増加しているということなので、対応策も随時変えていかなければならず、対応はますます高度で困難なものになると想像できる。これまで以上に、必要な人員と予算を投入して万全の体制で当たっていただきたいと思う。</li> <li>・これからも地産地消の取組を推進し、安全で安心な給食の提供を期待します。</li> <li>・民間委託の際はアレルギー食の対応方法まで示した方がわかりやすいと思う。</li> </ul>
----------------	--

番 号	6	主 管 課	教育総務課
事 業 名	学校統廃合事業		
施 策	安全・安心な教育を支える環境の整備		
区 分	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>学校の小規模化は、児童生徒の学校における人間関係の固定化、部活動や学校行事等における選択の制限等、教育環境として支障が生じることが想定されるため、平成 19 年 2 月策定の「長門市立小中学校適正配置方針」に基づき、統廃合により適正な教育環境が提供できる一定の学校規模の確保を図る。また、統廃合に際し、児童生徒が新たな環境に円滑に移行できるよう必要な対策を行う。</p> <p>※俵山中学校の深川中学校への統合</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	2,000,000 円 (2,000,000 円)	1,090,580 円 (1,008,000 円)	—
執 行 率	100.0 %	92.4 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>○児童養護施設における学校生活支援補助金交付事業</p> <p>児童養護施設俵山湯の家に在籍生徒への学校統廃合の対応として、深川中学校での生活支援を推進するため、学校生活支援員の雇用に係る経費を補助した。</p> <p>補助金対象者    児童養護施設俵山湯の家 補助金交付額    1,008,000 円 学校生活支援員配置延べ人数    199 人 (平成 29 年度は 407 人)</p> <p>当初は学校生活支援員の人件費等として 2,000 千円の予算措置をしていたが、本補助金が平成 30 年度までの時限措置のため、補助金がなくなる令和元年度に向けた準備に加え、施設入居生徒が落ち着いてきたことにより、添乗を登校時のみに変更したため、補助金を減額した。</p>		

<p>課 題 と 今後の取組</p>	
------------------------	--

〔事業名〕 学校統廃合事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入居生徒も落ち着いてきたようだが、今後どうなるか予測するのは難しい。もし添乗が必要になることがあった場合には、速やかに添乗ができるようにしていただきたい。</li> <li>・児童養護施設における生活支援事業で、施設入居生徒が落ち着いてきたとのこと。様々な家庭環境で育った児童生徒に対する温かい支援をお願いしたい。</li> <li>・児童生徒は毎年入れ替わるので、「新たな環境に円滑に移行」という観点はこれからも必要と思う。</li> <li>・今後の統廃合について、少子化により児童生徒数が減少している中、教育の環境を考える上で、小規模校として存続することも検討していただきたい。</li> <li>・施設の児童生徒が安心して生活していけるように持続的な補助は必要だと思う。</li> </ul>
----------------	--

番 号	7	主 管 課	教育総務課
事 業 名	通学支援事業		
施 策	安全・安心な教育を支える環境の整備		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>スクールバスを運行（旅客自動車運送事業所等に委託し実施）し、学校統廃合により遠距離通学となった小・中学校の児童生徒の通学に係る条件緩和と登下校時の安全確保を図る。</p> <p>また、小学生については概ね4km以上、中学生については概ね6km以上通学距離のある児童生徒に対し、通学に要する費用等を補助し、自転車通学が認められている児童生徒については、ヘルメット購入費を補助する等の支援を行い、通学条件の緩和と保護者の負担軽減を図る。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成29年度	平成30年度	平成31年度(当初)
	48,184,910円 (46,819,976円)	48,584,000円 (47,828,275円)	54,141,000円
執 行 率	97.2%	98.4%	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>1 スクールバス運行事業（事業費 46,172,071円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運行管理業務委託料（2社1法人） 38,404,857円  青海島地区～仙崎小18人、通地区～仙崎中16人 運行台数2台  渋木・真木地区～深川小15人、深川中8人 運行台数2台  俵山地区～深川中23人 運行台数2台（うち1台は乗用車）  油谷地区～油谷小48人、菱海中25人 運行台数4台</li> <li>・燃料費 3,743,785円</li> <li>・車検その他 4,023,429円</li> </ul> <p>保護者、学校、受託業者、教育委員会の4者で定期的に運行協議会を開催し情報交換を行うことで、児童生徒の安全・安心な通学を図っている。</p> <p>2 その他通学支援（事業費 1,656,204円）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童通学費等補助 1,443,204円（交付対象41人）</li> <li>・自転車通学児童用ヘルメット購入費補助 0円（〃0人）</li> <li>・生徒通学費等補助 82,500円（〃3人）</li> <li>・自転車通学生徒用ヘルメット購入費補助 130,500円（〃87人）</li> </ul>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>スクールバス運行管理業務については、業務価格を抑えるという観点から、また、子どもたちの安全で安心な通学のためには業者が度々替わるのは好ましくないとの保護者の意見もあったことから、令和元年度から3年間の長期継続契約とした（俵山地区除く）。</p> <p>通学支援に係る補助は、旧市町において行われた学校統廃合の条件をもとに定められ、市町合併時にそのまま新市に引き継がれたという経緯があることから、地区によって基準等に差異がある。通学費等補助及びスクールバスの利用による通学支援の基準等の統一に向けて、児童生徒の通学事情を十分踏まえ、今後も引き続き慎重に検討していく必要がある。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 通学支援事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールバスは、児童生徒にとって大切な通学手段であり、安全な運行が何より重要である。大切な児童生徒の命を危険にさらさないように、業者の選定には注意して取り組んでいただきたい。</li> <li>・スクールバスを安全に運行するため、利用する児童生徒のルール・マナーの指導を徹底してほしい。</li> <li>・引き続きスクールバスによる通学支援をお願いする。業者の長期継続契約は、保護者や児童生徒の安心感・信頼感が生まれているので、その点では有効と思う。</li> <li>・スクールバス運行は、児童生徒にとって必要な交通手段である。一般市民の利用も検討しているようだが、仮に混乗化されれば、大人が見守ることで、児童生徒にとってより安心して利用できるのではないかなと思う。</li> <li>・油谷地区のスクールバスを学校が休みの日に見かけたが、乗車人数が少ない時があるようなので4台も稼働する必要はないのではないかな。</li> </ul>
----------------	--

番 号	8	主 管 課	学校教育課
事 業 名	いじめ問題等対策事業		
施 策	安全・安心な教育を支える環境の整備		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>「長門市いじめ防止基本方針」（改訂版）に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応、いじめ解消率 100%をめざす取組を進めるとともに、全ての児童生徒が安心して学校生活を送ることができるように、指導・相談体制の一層の強化を図るため、教育相談員（臨床心理士）1 名を配置して、児童生徒や保護者・教職員の相談にあたる。</p> <p>また、児童生徒のいじめ等生徒指導上の諸問題の未然防止や早期解決及び安全確保のため、少年安全サポーター 1 名を配置し、各学校を巡回して、状況の把握と指導・助言を行う。</p>		
予 算 額 （ 決 算 額 ）	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度（当初）
	2,642,000 円 (2,368,370 円)	2,914,718 円 (2,348,057 円)	3,523,000 円
執 行 率	89.6 %	80.6 %	—
評 価  （取組状況 及び成果等）	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>教育相談員（臨床心理士）が、いじめや不登校などによる様々な心の問題をもつ児童生徒や親の悩み等の解決にあたり、その専門性を生かしてケースに応じた支援を行った。平成 30 年度においては 40 件の相談を受けており、前年度の 33 件に比べて相談件数は増え、その必要性は高まっている。また、教育相談員（臨床心理士）が教育支援センター相談員に支援方法などの的確な助言を行い、連携を強化して支援体制の充実を図った。</p> <p>【教育支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年度 相談件数（児童生徒の通室の延べ回数を含む）<span style="float: right;">1,063 件</span></li> <li>・平成 30 年度 教育支援センター会議<span style="float: right;">5 回</span></li> </ul> <p>また、少年安全サポーターが、学校を訪問して専門性を生かした指導・助言を行い、いじめの未然防止や生徒指導上の諸問題の早期解決に貢献した。さらに、学校における安全点検、避難訓練、防災訓練に関して、指導・助言を行い、学校安全対策の強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年度避難訓練・防災訓練実施件数<span style="float: right;">24 件</span></li> </ul>		

<p>課題と今後の取組</p>	<p>平成 29 年度、本市においていじめ重大事態が発生し、校内に調査委員会を設置して対応を行った。いじめ対策の強化は喫緊の課題であるため、平成 30 年度は、中央指導者研修（いじめの問題に関する指導者養成研修：つくば市）に教員を 1 名派遣し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応と指導を組織的に行うための指導者の養成を図った。令和元年度に開催するいじめ問題対策連絡協議会で、その受講者に研修成果を発表させ、市内小・中学校へ還元していく予定である。</p> <p>また、複雑化・多様化する学校課題解決や、児童生徒の安全安心な学校生活を担保するために、引き続き教育相談員（臨床心理士）の配置を行うとともに、少年安全サポーターの勤務日数を月 12 日から月 15 日に増加する。</p>
-----------------	--

〔事業名〕 いじめ問題等対策事業

<p>外部評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「中央指導者研修」に教員を派遣されたということだが、研修の成果を長門市全体の学校に広めていくためにも、「いじめ問題対策連絡協議会」の場だけでなく、各学校の校内研修に指導者として派遣されるなどの対策が必要だと思う。</li> <li>・いじめの根絶はなかなか難しいもの。さらに多様化・複雑化している現状では、危機意識を持ち対応することが必須である。それぞれの立場から、早期発見・安全確保のため、これからも指導・助言をしていただきたい。</li> <li>・教育相談員の配置により、支援体制の必要性和同時に支援の充実が図られたことは大変良いことと思う。いじめの発生防止と早期解決は簡単ではないと思う。事業の効果が上がるように継続した支援体制をお願いする。</li> <li>・いじめは早期発見をすることが、早期解決につながると思う。日頃から家庭や学校との信頼関係を築いていただきたい。</li> <li>・いじめ・不登校の相談件数は増加傾向にあるが、相談したくてもできない状態もあると思うので、少年安全サポーター、教育相談員（臨床心理士）の増員も必要ではないかと思う。</li> </ul>
-------------	---

番 号	9	主 管 課	学校教育課
事 業 名	不登校の未然防止に向けた専門家派遣事業		
施 策	安全・安心な教育を支える環境の整備		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>不登校対策は、未然防止と早期対応が何よりも重要である。不登校の兆候が現れた段階での専門家を交えたケース会議により、「環境面や心理面の的確な評価」に基づいた組織的な対応が必要不可欠である。</p> <p>このため、ケースに応じて SSW（スクールソーシャルワーカー／社会福祉士又は精神保健福祉士）を学校や家庭に派遣し、初期段階での即時対応により不登校の未然防止に向けた取組を行う。さらに、福祉部局や関係機関等とのネットワークの構築・連携・調整を図り、生徒指導・教育相談体制の充実・強化を図る。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	447,000円 (439,810円)	1,026,050円 (1,026,050円)	960,000円
執 行 率	98.4%	100.0%	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>平成 30 年度は、2 名の SSW を配置し、不登校の解消に向けて、児童生徒や保護者への支援、福祉関係部局等とのネットワークの構築を行った。さらに、教育委員会との定例会を実施し、情報交換や研修会を実施した。</p> <p>不登校の兆候が現れた早い段階で教育支援センターにつないだり、SSW が粘り強く児童生徒・保護者と関わり支援した結果、好転に向かうケースが多くみられた。学校から SSW への派遣要請の回数も大幅に増え、その必要性は高まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育委員会との定例会・・・年間 9 回</li> <li>○各ケースに応じた個別の支援・・・延べ 134 回 (29 年度 33 回)</li> <li>○各学校へのケース会議参加・・・延べ 17 回 (29 年度 1 回)</li> </ul>		



<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>不登校の未然防止や生徒指導上の諸課題の早期解決に向けた、生徒指導・教育相談体制の充実・強化を図ることが課題である。</p> <p>令和元年度は、SSW を 1 名増員し、3 名体制で支援体制の強化を図る。事案は複雑化・多様化しているため、専門家を交えたケース会議で支援方針や役割分担を確認し、迅速かつ的確に、組織的な対応を行っていく必要がある。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 不登校の未然防止に向けた専門家派遣事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSW を増員されたということは、対象人数が増えたり、事案が複雑化したりしてきたためだと思う。家庭に問題がある場合、なかなか解決は困難だと思うが、他の機関と連携しながら対応していただきたい。</li> <li>・不登校児童生徒に対する対応や未然防止など学校だけでは難しい面がある。様々なケースに対応すべくこれからもSSWの派遣が必要だと思う。</li> <li>・不登校は児童虐待などの家庭問題もはらんでいると思う。児童相談所や警察とも連携が図られるよう、情報共有をお願いする。</li> <li>・SSWの増員による支援体制がより機能するように、他機関等との連携、取組の強化をお願いする。</li> <li>・SSWの方の増員による効果に期待する。</li> </ul>
----------------	--

番 号	10	主 管 課	学校教育課														
事 業 名	教育支援センター事業																
施 策	安全・安心な教育を支える環境の整備																
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了																
事業の概要 及び目標	いじめや家庭環境など様々な要因から心に悩みを抱えていたり、不登校の状態となったりしている児童生徒は、増加傾向にある。教育委員会内に設置した教育支援センターで、センター相談員が電話や来所、訪問による相談を通して、不登校児童生徒や保護者、教職員への教育支援活動を行い、児童生徒の成長を支援する。また、SSW や教育相談員（臨床心理士）、少年安全サポーターとの連携を密に行い、支援活動の充実を図る。																
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)														
	6,421,636 円 (6,070,135 円)	6,159,000 円 (5,664,985 円)	6,159,000 円														
執 行 率	94.5 %	92.0 %	—														
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る																
	<p>教育支援センターの相談対応の年間延べ件数は、電話対応も含めて、551 件（平成 29 年度：709 件、平成 28 年度：503 件）であった。SSW や少年安全サポーター、教育相談員（臨床心理士）との連携を充実させ、心に悩みをもつ児童生徒のニーズに沿ったきめ細かな支援や保護者への支援活動を行った。</p> <p>○教育支援センター会議 年間 5 回</p> <p>○市内不登校児童生徒（年間 30 日以上の不登校の状態にあったもの）</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>平成 26 年度</td> <td>小学生 3 人</td> <td>中学生 15 人</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年度</td> <td>小学生 2 人</td> <td>中学生 15 人</td> </tr> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>小学生 4 人</td> <td>中学生 9 人</td> </tr> <tr> <td>平成 29 年度</td> <td>小学生 5 人</td> <td>中学生 11 人</td> </tr> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>小学生 4 人</td> <td>中学生 25 人</td> </tr> </table> <p>【通室による改善事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校、ひきこもり状態から通室できるようになった児童生徒 4 人</li> <li>・通室により学校への登校ができるようになった児童生徒 2 人</li> <li>・部分的に登校できるようになった児童生徒 3 人</li> <li>・通室により高校進学に至った生徒 1 人（公立 1 人）</li> </ul>			平成 26 年度	小学生 3 人	中学生 15 人	平成 27 年度	小学生 2 人	中学生 15 人	平成 28 年度	小学生 4 人	中学生 9 人	平成 29 年度	小学生 5 人	中学生 11 人	平成 30 年度	小学生 4 人
平成 26 年度	小学生 3 人	中学生 15 人															
平成 27 年度	小学生 2 人	中学生 15 人															
平成 28 年度	小学生 4 人	中学生 9 人															
平成 29 年度	小学生 5 人	中学生 11 人															
平成 30 年度	小学生 4 人	中学生 25 人															

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>友達とのトラブルや家庭環境など不登校に至った原因が多様であり、通室児童生徒の支援だけでなく、保護者・教職員の相談にも対応するなど、教育支援センターの担う役割は大きい。</p> <p>今後も、家庭環境の問題など、学校だけでは解決が困難なケースが考えられるため、SSW や教育相談員（臨床心理士）等と連携しながら支援体制を充実させていく必要がある。</p> <p>中学生の不登校生徒が増加しており、これらの生徒を教育支援センターにつなげるための働きかけを積極的に行っていく。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 教育支援センター事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校児童生徒の増加で、教育支援センターの役割はますます大きくなってきているようだが、対応される職員の負担も大きいのではないかと思う。他機関と連携して対応していただきたい。</li> <li>・学校に行きづらい児童生徒への学習環境として、今後も支援体制を充実してほしい。</li> <li>・登校しないで教育支援を受けられる選択肢があることは、非常に良いことと思う。継続した支援と制度の充実をお願いする。</li> <li>・支援センターに来所、訪問できる児童生徒や保護者は、一部の方だと思われます。児童生徒や保護者がセンターへ気軽に相談できるよう対応をお願いしたい。</li> <li>・不登校の生徒が減少するよう継続的に支援が必要だと思う。</li> </ul>
----------------	---

番 号	11	主 管 課	学校教育課																				
事 業 名	要・準要保護児童生徒就学援助事業																						
施 策	安全・安心な教育を支える環境の整備																						
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了																						
事業の概要 及び目標	<p>経済的理由で就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して学用品費・給食費等を援助することにより、保護者の経済的負担を軽減し、児童生徒の就学継続を図る。</p>																						
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)																				
	23,623,000 円 ( 21,604,167 円 )	21,477,000 円 ( 19,384,867 円 )	22,423,000 円																				
執 行 率	91.5 %	90.3 %	—																				
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る																						
	<p>各学校を通じて保護者全員に制度案内文書を配布し、希望者に各学校から申請書を配付している。</p> <p>認定者には、以下の費目を支給している。新入学用品費については、平成 29 年度分から入学前の支給（前倒し支給）を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学用品費、通学用品費、新入学用品費・・・定額支給</li> <li>・修学旅行費、校外活動費、宿泊学習費・・・上限あり</li> <li>・医療費、給食費・・・自己負担分全額支給</li> </ul> <p>●【H30 援助率】(当初) ※当初は 4 月からの認定者</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>認定者数</th> <th>児童生徒数</th> <th>援助率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>139 人</td> <td>1,405 人</td> <td>9.89 %</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>93 人</td> <td>765 人</td> <td>12.16 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>●【H30 予算額・決算額内訳】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>予算額</th> <th>決算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>10,908,000 円</td> <td>9,672,615 円</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>10,569,000 円</td> <td>9,712,252 円</td> </tr> </tbody> </table>			区分	認定者数	児童生徒数	援助率	小学校	139 人	1,405 人	9.89 %	中学校	93 人	765 人	12.16 %	区分	予算額	決算額	小学校	10,908,000 円	9,672,615 円	中学校	10,569,000 円
区分	認定者数	児童生徒数	援助率																				
小学校	139 人	1,405 人	9.89 %																				
中学校	93 人	765 人	12.16 %																				
区分	予算額	決算額																					
小学校	10,908,000 円	9,672,615 円																					
中学校	10,569,000 円	9,712,252 円																					

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>子どもの貧困が課題となっている今日、要・準要保護児童生徒就学援助制度の重要性が増している。</p> <p>これまで、入学前の新入学用品費の支給の実施など、制度の充実を図ってきたが、今後も引き続き、支給対象費目や支給金額について、国や他市の動向をみながら検討・判断していく。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 要・準要保護児童生徒就学援助事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要・準要保護児童生徒就学援助制度は、とてもありがたい制度である。保護者への周知および支給対象費目の拡大や支給金額の増額について検討していただきたい。</li> <li>・長門市は、申請の数が少ないと聞いたが、入学時や進学時に保護者に対して、制度案内書を配布するとともに内容の説明等の配慮があれば良いと思う。</li> <li>・保護者の経済的負担が軽減され、子どもが安心して就学できる良い制度だと思うが、長門市は申請者が他市町村と比べ少ないと聞いた。保護者全員に制度の案内が配布されているようだが、申請が出しにくい環境があるとするならば、申請が出しやすい方法、環境など検討していただきたいと思う。</li> <li>・経済的に困難と認められる保護者への援助は必要だと思う。支給対象者の審査は厳格に行う必要がある。</li> <li>・本当に必要な方が申請しやすいような体制が必要だと思う。</li> </ul>
----------------	---

番 号	12	主 管 課	教育総務課																															
事 業 名	学校教育情報化事業																																	
施 策	質の高い教育に対応するための教職員の指導体制と教育環境の充実																																	
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了																																	
事業の概要 及び目標	<p>小・中学校の ICT 機器を計画的に更新し、情報教育環境を充実させることにより、情報教育の向上と推進を図り、児童生徒の情報活用能力を育成する。</p> <p>各学校のコンピューター室における教育用パソコンの台数については、1 クラス分の台数が整備済みであり、教職員の校務用パソコンについても一人1台の整備を平成25年度に完了した。</p> <p>ICT 機器については、リース方式により概ね5年毎に更新を行いながら、タブレット化や無線 LAN 環境、周辺機器の整備も推進していく。</p>																																	
予 算 額 (決算額)	平成29年度	平成30年度	平成31年度(当初)																															
	31,119,000 円 ( 30,968,721 円)	29,195,000 円 ( 28,926,393 円)	41,350,000 円																															
執 行 率	99.5 %	99.1 %	—																															
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る																																	
	<p>平成30年度は、小学校2校、中学校4校の教育用ノートパソコンをタブレット端末に更新し、あわせてグラウンドまでカバーする無線 LAN を整備し学校敷地内でのタブレット端末の利用環境を整えた。</p> <p>また、小学校3校、中学校1校において校務用パソコンを更新した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教育用タブレット・校務用パソコン(更新) 2,644,565 円 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>深川小学校</td> <td>33 台</td> <td>明倫小学校</td> <td>35 台</td> </tr> <tr> <td>浅田小学校</td> <td>28 台</td> <td>日置小学校</td> <td>11 台</td> </tr> </table> </li> <li>・中学校教育用タブレット・校務用パソコン(更新) 4,333,315 円 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>仙崎中学校</td> <td>28 台</td> <td>深川中学校</td> <td>40 台</td> </tr> <tr> <td>三隅中学校</td> <td>41 台</td> <td>菱海中学校</td> <td>37 台</td> </tr> </table> </li> <li>・小学校教育用・校務用パソコン等(継続) 15,288,915 円 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>教育用</td> <td>212 台</td> <td>校務用</td> <td>80 台</td> </tr> <tr> <td>電子黒板</td> <td>15 台</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </li> <li>・中学校教育用・校務用パソコン等(継続) 6,659,598 円 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>教育用</td> <td>154 台</td> <td>校務用</td> <td>58 台</td> </tr> <tr> <td>電子黒板</td> <td>21 台</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </li> </ul>			深川小学校	33 台	明倫小学校	35 台	浅田小学校	28 台	日置小学校	11 台	仙崎中学校	28 台	深川中学校	40 台	三隅中学校	41 台	菱海中学校	37 台	教育用	212 台	校務用	80 台	電子黒板	15 台			教育用	154 台	校務用	58 台	電子黒板	21 台	
深川小学校	33 台	明倫小学校	35 台																															
浅田小学校	28 台	日置小学校	11 台																															
仙崎中学校	28 台	深川中学校	40 台																															
三隅中学校	41 台	菱海中学校	37 台																															
教育用	212 台	校務用	80 台																															
電子黒板	15 台																																	
教育用	154 台	校務用	58 台																															
電子黒板	21 台																																	

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>令和元年度に、タブレット端末未整備の小学校 6 校について整備予定であり、全ての小・中学校でタブレット端末と無線 LAN 環境が整う。今後一層 ICT を活用した情報教育の推進が図られるものとする。</p> <p>一方、機器の維持・更新には多額の費用がかかり、今後も必要な機器を継続的に配備していくために、効率的な調達方法により、費用負担の軽減に努める必要がある。</p> <p>また、現在学校毎にサーバを設置し管理しているが、学校の負担軽減やセキュリティ対策のため、センターサーバ化を検討する。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 学校教育情報化事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めまぐるしく進歩する社会状況から、ICT 機器の学校現場への整備は必要不可欠であろう。予算はかかると思うが、児童生徒の将来のために、今後も必要な機器の配備をお願いしたい。</li> <li>・教育用タブレットや電子黒板など有効に活用し、学習効果に結びついていけば良いと思う。</li> <li>・先日、学校のパソコンに触れる機会があり、機器の維持や更新には多額の費用が掛かるだろうと実感した。効率的な調達方法による負担軽減策は今後ますます必要と思う。</li> <li>・児童生徒の情報教育については、画像や動画の活用など、タブレット端末の環境により教育の質の向上を図ってほしい。セキュリティ対策の整備・検討は万全にされるようお願いする。</li> <li>・各学校に機器が充実していると思う。</li> </ul>
----------------	--

番 号	13	主 管 課	学校教育課
事 業 名	学校教育研究大会事業		
施 策	質の高い教育に対応するための教職員の指導体制と教育環境の充実		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要	<p>ふるさと「ながと」の教育資源を活用し、未来を生き抜く力を育てるために、コミュニティ・スクールや地域協育ネット、小中一貫教育の取組をもとにした教育をさらに充実・深化させることをめざし本事業を実施する。</p> <p>本研究大会では、知・徳・体の調和がとれた「生きる力」を育成するため、毎年副主題を設定し、それに沿った講演や事例発表等の研修を実施する。また、教育関係者のみならず、学校運営協議会委員や保護者にも参加を呼びかけ、地域総がかりの教育を推進する。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	269,000 円 (215,489 円)	239,000 円 (194,900 円)	249,000 円
執 行 率	80.1 %	81.5 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>平成 30 年度に学校教育基本方針を「ながとに学び、未来に生きる ～知・徳・体の調和がとれた『生きる力』の育成～」に刷新し、教職員や保護者、地域住民の理解を深めるよう努めており、学校課題の解決や教育活動の充実に結びつきつつある。</p> <p>平成 30 年度は「豊かな心を育成する教育活動の推進」を大会副主題にして、事例発表や講演を通して研修を行い、みずぶさんのまなざしと感性を大切にしたい心の教育に取り組むことの重要性を再認識した。</p> <p>開催日時 平成 30 年 8 月 23 日 (木) 午後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場所 ラポールゆや</li> <li>・市内各小・中学校から出品展示作品 26 点</li> <li>・事例発表「明倫小の読書活動の取組～本から広がる心の響き合い～」 明倫小学校 教諭 西本 由美子</li> <li>・講演「考え、議論する道徳の授業づくり」 名古屋市立下志段味小学校 教諭 竹井 秀文</li> </ul>		



<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>令和元年度の研究大会では「体育」の観点から、ながと健康百寿プロジェクト・「健幸」づくり推進事業との連携の下、がん教育に関する研修を深め、今後、長門市内の小・中学校におけるがん教育推進のための実践に生かしていく。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 学校教育研究大会事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年度は「がん教育の推進」がテーマになっており、とても興味深い内容だと思う。一般の参加者が参加しやすい研究大会になると良いと思う。</li> <li>・教職員が講演や事例発表等で研修を深め、今後の教育活動にプラスになることはとても良いことだと思う。</li> <li>・今後の教育の指導に生かせる取組ならば、今後も充実を図っていただきたいと思う。</li> <li>・今年度はがん教育に重点を置かれるということだが、日本はがん検診を受ける方がまだまだ低いと聞く。啓発活動の観点からも推進していただけたらと思う。</li> <li>・研究大会に多数の参加をしていただくためには、保護者・地域住民への周知が必要である。</li> <li>・長門にはたくさんの教育資源があるので、地域の枠を超えて、長門市全体の小・中学校で学んでいけるようにしてほしい。</li> </ul>
----------------	--

番 号	14	主 管 課	学校教育課
事 業 名	研究指定校補助事業		
施 策	質の高い教育に対応するための教職員の指導体制と教育環境の充実		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>本市学校教育基本方針に基づく創意工夫を生かした主体的な学校づくりと、特色ある教育活動を推進するために、各校からの応募申請に基づき、研究指定校を設置する。</p> <p>研究領域は、①学力向上、②みずゞ教育（心の教育）、③特別支援教育、④へき地・複式教育、⑤その他 とし、教育課程実施上の諸課題の解決をめざした研究課題や、社会の変化への対応や地域社会との連携を視野に入れた研究課題を設け、先進的な研究や特色ある教育活動・学校づくりを推進し、その成果を本市小・中学校に広めていく。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	600,000 円 (600,000 円)	600,000 円 (600,000 円)	600,000 円
執 行 率	100.0 %	100.0 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>平成 30 年度：8 校を指定</p> <p>①学力向上（日置小、神田小、油谷小）60,000 円×3 校，180,000 円 学力向上（仙崎中、深川中）100,000 円×2 校，200,000 円</p> <p>②みずゞ教育（明倫小）60,000 円</p> <p>③特別支援教育（深川小）100,000 円</p> <p>④へき地・複式教育（俵山小）60,000 円</p> <p>それぞれの研究指定校で、講師を招聘しての授業研究会や講演会、先進校視察や研修職員会議等が計画的に行われ、その成果として、学力向上、みずゞ教育、特別支援教育、へき地・複式教育等、各領域の研究が推進された。</p> <p>研究成果を市内各小・中学校に還元するため、研究指定校の成果物である研究集録を市内各校に配付した。また、指定校によっては、研究大会を開催し、授業公開や基調提案等により参加者に成果を還元した。</p>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>平成 30 年度は、①学力向上に関する研究領域に取り組む学校が多かったが、各領域数を調整せず、各校の研究課題やテーマのニーズに応じていくようにしたため、全ての応募校を研究指定校にすることができ、好評であった。</p> <p>令和元年度も、前年度のスタンスを継承しつつ、全体のバランスをとりながら、各校からのニーズにできるだけ応えていく。</p> <p>なお、研究指定校を決定する際には、学校の現状や立場を考慮し優先順位をつけていくとともに、決定に至る過程の透明性を確保しながら、指定校数や補助金額について柔軟に対応していく。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 研究指定校補助事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校には、研修に使える予算がないので、校内研修の充実を図る上からも、応募校全てに予算措置を行っていただきたい。</li> <li>・研究指定校として、講師の派遣や公開授業など大変な面も多くあるが、資質向上のためこれからも継続してほしい。</li> <li>・授業研究会や講演会などを計画的に開催することで、その成果として研究が推進されたとある。研究成果が今後の教育指導に役立つよう、今後も実効性のあるものにしていただきたいと思う。</li> <li>・研究大会の開催により、研究成果を広めていただきたい。</li> <li>・このまま継続していただきたい。</li> </ul>
----------------	---

番 号	15	主 管 課	学校教育課
事 業 名	学校図書館支援員配置事業		
施 策	質の高い教育に対応するための教職員の指導体制と教育環境の充実		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>学校図書館の図書の整備やいつでも自由に本が読める図書コーナーの設置等、図書館担当教員と協議しながら校内の学習や読書の環境を充実させるために、非常勤の学校図書館支援員を配置する。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	531,000 円 ( 422,920 円)	543,000 円 ( 436,180 円)	1,085,000 円
執 行 率	79.6 %	80.3 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>1 配置校 向陽小学校、浅田小学校、油谷小学校 各校に週 1 日 4 時間、年間 40 日勤務</p> <p>2 活動内容 図書の修理・整頓・廃棄、図書室だよりの発行等による広報活動、 図書コーナー (みすゞコーナー、教科書に出ている図書のコーナー等) の設置、ブックトーク、読み聞かせ、掲示物の作成等</p> <p>3 成果 配置校では、図書の整理や選書をはじめ、ブックトークを行うなど 様々な取組をしている。ブックトークや読み聞かせを行った結果、特 定の図書しか読まなかった子どもが、紹介された図書に興味を持ち積 極的に読書活動が続いているという事例が、昨年度に引き続きあった。 また、図書室に支援員が在室しているという環境が、子どもたちにと って、図書室に行きたいという意欲にもつながっている。 さらに、図書室の環境整備が進み、調べ学習等でも関連図書が探し やすくなっており、特に支援員が在室している日には、直接相談がで きることも大変有効であり、学習に対する効果は大きい。</p>		

<p>課題と今後の取組</p>	<p>平成 28 年度に開始した事業であるが、配置校からの評価は大変高い。平成 30 年 4 月には明倫小学校における教員と学校図書館支援員の協働による読書指導に対し文部科学大臣表彰を受けるなど、対外的にも評価されており、令和元年度の継続配置や新規配置を希望する小学校は 10 校（全 11 校中）あり、教育効果も大きいことから、令和元年度からは支援員を 1 名増員し、2 名体制として小学校 6 校に配置する。</p> <p>学校図書館支援員の配置ができなかった学校へも、情報交換や情報共有ができるよう、図書館担当の研修会等を活用して支援していく必要がある。</p> <p>また、学校図書館支援員を講師とした、保護者（保護者ボランティアを含む）や地域の方等を対象とした研修会の実施や、市立図書館と連携した活動や研修方法を探っていくながら、更に成果を上げていきたい。</p>
-----------------	---

〔事業名〕 学校図書館支援員配置事業

<p>外部評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地訪問により学校図書館支援員の役割の重要性を感じることができた。今年 1 人増やされたということだが、全ての小学校へ配置できるように人数を増やしていただきたい。資格についても、図書館司書は見つけるのが困難ということなので、司書教諭の資格を有しておられる方でもいいのではないかと思う。</li> <li>・教職員では手が回らない部分を補ってもらうとともに、児童が使いやすい図書室にするため、継続されることを望む。</li> <li>・学校図書館支援員の創意工夫で環境整備など取り組まれていることに好感を持った。とても良い取組だと思う。支援員を配置希望の学校がさらにあることと、支援員となる有資格者が少ないことを聞いた。将来を見据えて、支援員の確保と支援員の養成も同時に必要ではないかと思う。</li> <li>・学校図書館支援員の成果は大変大きいと思う。図書室の改善や読書活動の支援には頭が下がる。これから先、支援員の各学校へ配置ができるように人数を拡充していただきたい。</li> <li>・児童の読書への関心を高めるためいろいろな工夫をされていることがよくわかった。これからも継続していただきたい。</li> </ul>
-------------	--

番 号	16	主 管 課	学校教育課
事 業 名	教員業務アシスタント配置事業		
施 策	質の高い教育に対応するための教職員の指導体制と教育環境の充実		
区 分	<input type="checkbox"/> 継続	<input checked="" type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 完了
事業の概要 及び目標	<p>平成 28 年度教員勤務実態調査（文部科学省）では、自宅残業も含めた時間外労働が月 80 時間を超える教員の割合は、小学校で 57.8%、中学校で 74.1%に上り、学校における「働き方改革」は、社会的な課題の一つとなっているが、本市も同様の状況にある。</p> <p>そこで、学校に教員の業務を補助するアシスタントを配置し、「教員の働き方改革」を推進する。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	—	1,379,000 円 ( 1,077,580 円)	1,400,000 円
執 行 率	—	78.1 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>1 配置人数    2 名 (仙崎中 1 名、深川中 1 名)</p> <p>2 勤務形態    1 週間当たり 20 時間以内×35 週</p> <p>3 業務内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷業務</li> <li>・学習、学級事務業務</li> <li>・集計、データ入力等業務</li> <li>・その他教員の業務に関する必要な支援</li> </ul> <p>配置校である仙崎中学校と深川中学校では、プリント印刷、データ入力等の教員への負担が軽減され、「教員の働き方改革」を実感できると好評を得ている。アシスタントが学校教職員組織の一員として明確に認識されており、アシスタントの効果的な活用が行われている。</p>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>教員業務アシスタントを配置し、教員の事務的な負担の軽減を行うという取組であるが、教員の時間外業務時間の削減は、不十分な状態である。ただ、アシスタントの配置によって、教員自らが「働き方」を意識する契機になっているという声を聞いている。生徒に関わる様々な案件への対応や部活動の在り方など、今後、改善していかなければならない課題があるが、まずは、アシスタントによる事務的な業務への支援を充実させていきたい。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 教員業務アシスタント配置事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内の様々な仕事をこなされていることを知り、とても成果があがっていることが分かった。中学校2校だけのようだが、すべての学校に配置されることを望む。</li> <li>・「働き方改革」と言われても教員の時間外労働は減らないのが現状である。少しでも事務的な仕事を補助していただければ、負担軽減になると思うので、これからも継続されると良いと思う。</li> <li>・教員の事務負担の軽減に、大変有効な事業だと感じた。この補助事業が継続的にできるかは不透明と聞いたので、ぜひ単独事業として継続していただきたいと思う。</li> <li>・教員の働き方改革を推進するには教員業務アシスタントの支援は必要である。教員の事務的な業務の負担は非常に大きいので、予算面の問題等もあるが、各学校へアシスタントの配置を推進していくことを希望する。</li> <li>・教員の働き方改革のために必要な人材だと思う。</li> </ul>
----------------	--

番 号	17	主 管 課	学校教育課
事 業 名	コミュニティ・スクール推進事業		
施 策	地域総がかりで子どもたちを育てる環境の整備		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>コミュニティ・スクールの取組により、地域総がかりの教育を推進して子どもたちの「生きる力」を育てるためには、その中心である学校運営協議会の充実が重要である。</p> <p>そこで、「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」の実現に向け、学校運営協議会委員の資質向上を図るための研修会参加旅費や協議会資料作成費等を補助し、学校運営協議会の取組を充実させる。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	345,000 円 (261,141 円)	403,200 円 (372,665 円)	822,000 円
執 行 率	75.7 %	92.4 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>学校・家庭・地域で核となる人材の育成を目的として、下記の研修会に参加した。</p> <p>1 やまぐち地域連携教育の集い（西部地域）（本市から 21 名参加）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年 11 月 2 日（金） 下関市菊川町ふれあい会館[アブニール]</li> <li>・熟議【テーマ】地域ぐるみで育む、子どもたちの「ふるさとを愛する心」</li> <li>・所管説明 山口県教育委員会</li> <li>・実践発表「ふるさとを愛する心の育成」に関する事例発表 下関市立栗野小学校，山口県立豊北・下関北高等学校</li> <li>・講演 文部科学省 CS 推進員 赤松 梨江子 氏 演題「未来の人づくり・地域づくりにつながる“学校・家庭・地域の連携・協働”</li> </ul> <p>県教育委員会の所管説明及び実践発表から、国や県、他市町の取組状況を知ることができた。講演では、徳島県東みよし町立三加茂中学校区での家庭・地域・行政の効果的な連携・協働について研修を深めた。</p> <p>2 学校運営協議会の取組の充実に対する支援</p> <p>学校運営協議会資料作成費等の補助を行い、推進の充実を図った。</p>		



<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>令和元年度、「やまぐち地域連携教育の集い」が県内2か所で開催される。この研修会への参加等を通して、学校運営協議会委員の「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」への参画意識を高めていく。</p> <p>研修内容を各学校の学校運営協議会にどのように生かしていくかを考え、具体的な実働につながるよう工夫し、活性化を図る必要がある。</p> <p>なお、学校運営協議会の更なる充実を図るため、資料作成費の補助に加え、令和元年度から学校運営協議会委員の報酬の設定をする。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 コミュニティ・スクール推進事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある学校では、学校運営協議会だよりも地区に回覧されているので、活動の様子を知ることができる。地域総がかりの教育を推進するためにも、学校運営協議会を開かれたものにしていくことが大切だと思う。</li> <li>・研修会に参加することで、学校運営協議会の資質向上を図り、地域に生かしてほしい。</li> <li>・学校の統廃合が進むことにより、地域と学校のつながりは統廃合前とは反対に周辺部ほど希薄になってきているのではないだろうか。本事業と合わせて公民館や地域団体との連携も視野に支援を考えていただけたらと思う。</li> <li>・研修会や講演会に参加することにより、「地域づくり」への参画意識が高まると思う。</li> <li>・学校・地域連携していくため研修されたことを生かしてほしい。</li> </ul>
----------------	--

番 号	18	主 管 課	学校教育課
事 業 名	地域連携アシスタント配置事業		
施 策	地域総がかりで子どもたちを育てる環境の整備		
区 分	<input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	各校における学校運営協議会の会議運営（開催案内の作成、会議資料の印刷等の業務）や学校運営協議会委員との連絡・調整等の業務に従事するアシスタントを学校に配置し、担当教職員の負担軽減、コミュニティスクールの取組充実に対する支援を行う。		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	—	3,448,000 円 ( 2,844,360 円)	3,448,000 円
執 行 率	—	82.5 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	1 配置人数 5名 仙崎中学校区 1名 (仙崎中・通小・仙崎小) 深川中学校区 1名 (深川中・深川小・向陽小・俵山小) 三隅中学校区 1名 (三隅中・明倫小・浅田小) 日置中学校区 1名 (日置中・日置小・神田小) 菱海中学校区 1名 (菱海中・油谷小・向津具小) 2 勤務形態 1週間当たり 20時間以内×35週 各中学校区内で、曜日により勤務校を定めて勤務 3 業務内容 ・会議開催案内、会議録の作成 ・会議資料、広報誌等の印刷 ・学校運営協議会委員との連絡調整 ・公民館との連携 ・その他地域連携に関する必要な支援 地域連携の実際については、各校とも特色があり、それに対応した多様な業務をアシスタントが行っており、配置校からの評価は高い。		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>市内全小・中学校が、学校運営協議会を設置するコミュニティ・スクールとなって7年目となる。コミュニティ・スクールに関わる業務内容については、各地域や各校で特色のあるものになっている。今後も、こうした特色に対応した地域連携アシスタントとしての支援を実施していく。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 地域連携アシスタント配置事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アシスタントが配置され、教員の負担も軽減してきているということを知り、今後も事業の継続をお願いしたい。</li> <li>・学校運営協議会との連携をスムーズに行うためには必要な事業だと思う。それぞれの地域の特色に応じたアシスタントによる業務支援を、これからも継続してほしい。</li> <li>・教員業務アシスタント事業と同様に大変有意義な事業と思う。学校からの期待も大きく、仕事の依頼も多いようである。地域に関わる他の事業との連携を図っていただき、さらに効果的になるように期待する。学校をまたぐ業務や取組があれば、連絡や調整、情報の共有に大きな役割を発揮するものだと思う。</li> <li>・事務的な業務が少しでも軽減できるのであれば、予算面の問題もあるがアシスタントによる支援は実施したほうが良いと思う。</li> <li>・地域と連携を図るため必要な事業だと思う。</li> </ul>
----------------	---

番 号	19	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課
事 業 名	地域協育ネット事業		
施 策	地域総がかりで子どもたちを育てる環境の整備		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>公民館が地域の人と学校をつなぐコーディネーターの役割を果たしながら、子どもたちの育ちや学びを地域ぐるみで見守り支援し、地域と学校が協働・連携して、子どもの成長を支えるための仕組みづくりを行う。</p> <p>地域の人が参画・協働することにより、子どもたちの豊かな心を育むとともに、地域の教育力の向上や地域活性化につなげていく。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	203,000 円 ( 186,703 円)	203,000 円 ( 199,328 円)	203,000 円
執 行 率	92.0 %	98.2 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>公民館型の地域協育ネットにより、校内・校外支援を行い、学校・家庭・地域が連携した活動に取り組んでおり、地域総がかりで子どもを育てる気運も高まり、地域の活性化にもつながっている。</p> <p>通地域協育ネット (通小学校、通保育園) 支援者数 598 人  仙崎地域協育ネット (仙崎小学校、仙崎中学校) 支援者数 857 人  深川地域協育ネット (深川小学校、向陽小学校、深川中学校) 支援者数 1,701 人  俵山地域協育ネット (俵山小学校、俵山幼稚園) 支援者数 795 人  三隅地域協育ネット (明倫小学校、浅田小学校、三隅中学校、三隅保育園、宗頭幼稚園) 支援者数 2,375 人  日置地域協育ネット (日置小学校、神田小学校、日置中学校) 支援者数 3,906 人  油谷地域協育ネット (油谷小学校、向津具小学校、菱海中学校) 支援者数 1,785 人</p> <p>※支援者数は、延べ人数</p>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>今後も「地域協育ネット」の仕組みを生かして学校支援を行うにあたり、コーディネータ力の向上が求められる。市主催の研修会だけでなく、県が開催する研修会にも参加し、コーディネータ力の向上を図る。</p> <p>現在は主に館長がコーディネーターの役割を果たしているが、今後は他の公民館職員にも積極的な参画を促し、公民館全体で取り組むことで、更なる「地域教育ネット」の機能強化につなげる。</p> <p>また、学校教育課と連携し、地域と学校の連携強化を推進していく。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 地域協育ネット事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと地域の人とのつながりを深めていくことで、子どもたちも地域の大人を身近に感じるようになり、地域の教育力も復活してくるのではないかと思う。</li> <li>・学校とは違った学びの場であり、それぞれ地域の特色が活かされており、異年齢や地域の人との関わりが豊かな心を育むことへとつながると思う。これからもいろいろな体験活動を提供してほしい。</li> <li>・地域における公民館長の役割の大きさを改めて感じる。</li> <li>・学校とは違った取組で子どもたちが活動できる場となっている公民館が、地域の人と学校をつなぎ子どもたちを育てていくと思うので、これからも引き続き連携強化を推進していただきたい。</li> <li>・地域全体で子どもたちを育てるという環境づくりは大切だと思う。</li> </ul>
----------------	--

番 号	20	主 管 課	学校教育課
事 業 名	「確かな学力」育成サポート事業		
施 策	「確かな学力」を身につけるための教育内容・方法の充実		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>児童生徒の学力向上に向け、より質の高い授業を提供することが重要である。そのために、現代的な課題や先進的な全国レベルの指導法に基づいた研修を実施している学校を視察させ、校内での研修体制の充実に役立てるとともに、市内の学校にも還元する。</p> <p>さらに、学力向上プラン検討会を年2回実施し、PDCA サイクルにのせて、授業改善、学習習慣づくり、補充学習などの取組を充実させ、児童生徒の学力の向上を図る。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	635,000 円 (325,772 円)	806,000 円 (627,526 円)	794,000 円
執 行 率	51.3 %	77.9 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>各みすゞ学園から1名ずつ計5名が、学力向上に向けた研修視察を行い、小中連携した研修に生かすとともに、全校体制による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた組織的な授業改善を図った。</p> <p>【研修先】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市立高倉小学校・京都市立京都御池中学校（仙崎小）</li> <li>・京都市東山泉小中学校・和歌山大学教育学部附属小学校（深川小）</li> <li>・福井大学教育学部附属義務教育学校（三隅中）</li> <li>・東京学芸大学附属世田谷小学校（日置小）</li> <li>・立命館大学朱雀キャンパス・向日市立第2向陽小学校（向津具小）</li> </ul> <p>【プラン検討会】</p> <p>○1回目（6月19日） 指導者：市内の学力向上推進リーダー 黒瀬泰樹 教頭 吉野浩美 教頭</p> <p>○2回目（12月25日） 指導者：下関市立養治小学校 板倉香代 教諭</p> <p>視察報告を行い、各校の取組状況を発表し、協議した。市内全学校で学力向上の組織的な取組がなされ、市全体の学力は向上しつつある。</p>		

<p>課題と今後の取組</p>	<p>学力向上に向けた組織的な取組はなされているが、学校や教員によって授業改善の意識や取組に差があることが課題である。</p> <p>今後も各みすゞ学園の小中連携に向けた具体的な取組や、各学校の課題解決に関連する研修先の選定について、担当指導主事が指導を継続し支援を行う。</p> <p>また、学力向上プラン検討会では、年2回の検証・改善サイクルを基本とした組織的な授業改善により、学校の「組織力」、教員の「授業力」の一層の向上、学校・家庭・地域の「連携力」の一層の強化が図られるように、内容の充実を図っていく。</p>
-----------------	--

〔事業名〕 「確かな学力」育成サポート事業

<p>外部評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年文部科学省が行っている全国学力学習状況調査の結果も少しずつ向上しているように聞いている。学校や教員によって授業改善の意識の差があるようだが、本事業を継続して行うことで差も埋まってくるのではないかと思う。</li> <li>・学力向上のため、先進的な課題に取り組んでいる学校の視察は必要である。それをどのように還元し、指導につなげるか難しい面もあると思うが継続してほしいと思う。</li> <li>・取組により学力は向上しつつあるということで、明確な成果はこれからののだろうか。これからも取組と同時に検証が必要だと思う。</li> <li>・児童生徒の学力向上に向けた研修・視察を、多くの教員が参加できるように充実していただきたい。</li> <li>・他地域の教育視察を行い、良いところは取り入れていければいいと思う。</li> </ul>
-------------	--

番 号	21	主 管 課	学校教育課
事 業 名	外国語指導助手導入事業		
施 策	「確かな学力」を身につけるための教育内容・方法の充実		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 新規	<input type="checkbox"/> 完了
事業の概要 及び目標	<p>小学校外国語教育の早期化・教科化等が実施される新学習指導要領の実施に備え、外国語指導助手（ALT）を市内全小・中学校に派遣することにより、児童生徒の語学力の向上と、教員の外国語指導における資質・能力の向上を図る。</p> <p>また、ALT を活用した授業でより教育効果があがるようにするため、小学校英語専科教員や英語教育推進教員を市内小学校に派遣し、教員の指導方法の工夫・改善を図る。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	16,132,761 円 (15,759,623 円)	16,957,000 円 (16,706,409 円)	21,380,000 円
執 行 率	97.7 %	98.5 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>平成 30 年度は ALT を 3 名から 4 名へ 1 名増員し、主に小学校において、児童生徒の語学力向上と教員の外国語指導における資質・能力の向上を図った。</p> <p>令和 2 年度の新学習指導要領の完全実施に備え、移行措置として、市内の小学校では概ね外国語活動を 3・4 年生は年間 35 単位時間、5・6 年生は年間 70 単位時間を実施しており、そのほとんどの時間で ALT を活用した授業を展開した。ALT とのコミュニケーションを大切にしながら、外国語による言語活動の充実を図った。</p> <p>また、本市に配置している ALT の授業技術の向上をめざし、年間 3 回の ALT 研修会を開催し、資質・能力の向上を図った。</p>		



<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>新学習指導要領の完全実施に備え、児童生徒の語学力の向上と、教員の外国語指導における資質・能力の向上が課題である。</p> <p>今後も、ALT を効果的に活用することで、教員の資質・能力の向上をめざすとともに、児童生徒の外国語による、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動の充実を図っていく。</p> <p>また、ALT の更なる授業技術の向上を図るため、ALT 研修会を継続して行っていく。</p>
----------------------------	--

〔 事 業 名 〕 外国語指導助手導入事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語活動は、児童にとってはとても楽しい授業の一つである。新学習指導要領の実施で5・6年生は教科になるようだが、ALT を生かして英語嫌いを生まないようにしていただきたい。</li> <li>・外国語学習が完全実施になるとのことで、外国語指導助手は欠かせない。児童生徒の語学力向上とともに教員の指導能力の向上を期待する。</li> <li>・児童生徒の語学力向上につながるものとして大いに期待する。</li> <li>・小・中学校でALT を活用することで、より効果的な学習につながるよう継続をお願いしたい。</li> <li>・ALT の授業は児童生徒にとって外国語に触れる貴重な時間なので、可能な限り授業数を確保していただきたい。</li> </ul>
----------------	--

番 号	22	主 管 課	学校教育課
事 業 名	キャリア教育推進事業		
施 策	子どもたちの発達段階に応じた豊かな心と健やかな体の育成		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	市内の幼児・児童生徒などを対象に、市内の高校や企業、県内の大学と連携して、さまざまな体験ができる特色あるブースを多く開設する「長門サイエンスフェスティバル」を開催し、子どもたちの科学への興味関心を高めるとともに、地域の産業や自然にふれることを通してキャリア教育の充実を図る。		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	333,000 円 ( 327,680 円)	463,000 円 ( 460,660 円)	463,000 円
執 行 率	98.4 %	99.5 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	1 長門サイエンスフェスティバル実行委員会 ○第1回 6月20日(水) 第2回 7月23日(月)  2 長門サイエンスフェスティバル(会場:長門市立深川小学校) ○前日準備 9月28日(金) ○当日 9月29日(土) 10:00~15:30  平成30年度は、ボランティアを含め約1,500人の参加があった。市内の企業や団体に加えて、県内外からの協力者もあり、合計で26ブースの出展があった。 各ブースでは、地域の産業と密接に関連したものや子どもたちの興味・関心を引くものが数多くあり、長蛇の列ができるほど大盛況であった。 中学生がボランティアとして運営に参加しており、社会の一員としての自覚を深め、自分の役割を果たそうとする意欲の高まりを感じることができた。		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>午前中で終了となってしまいうブースが数か所あり、各ブースの準備物数や予算額について検討する必要がある。また、令和元年度は会場がルネッサながとになるため、更なる参加が見込まれる。ボランティアへの協力をより一層呼びかけたい。</p> <p>市内の企業や高校の参加により、長門市の産業や高校に興味関心を抱くよい機会であるため、それぞれの取組について、ポスター等によりしっかりアピールしていただくよう呼びかけたい。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 キャリア教育推進事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長門サイエンスフェスティバルも年々参加者が増えている。校区内の子は自由に参加できるが、他の地区の子は保護者が連れて来ているようだ。市内のどこからでも希望する子が自由に参加できるようになると良いと思う。</li> <li>・科学への興味関心を高める良い企画だと思う。今年度、会場が広くなり、たくさんの方が来場しやすいのではと期待している。ボランティア確保は大変だと思うが、事業を十分にアピールし、しっかり実施してほしい。</li> <li>・児童生徒に非常に人気のあるプログラムで、科学への興味関心を高めるものだと思う。</li> <li>・市内の企業や高校の参加により、幼児・児童生徒がいろいろなブースで体験できる機会である。これからも継続していただきたい。</li> <li>・子どもが科学への興味関心を持ついい機会だと思うので続けてほしい。</li> </ul>
----------------	---

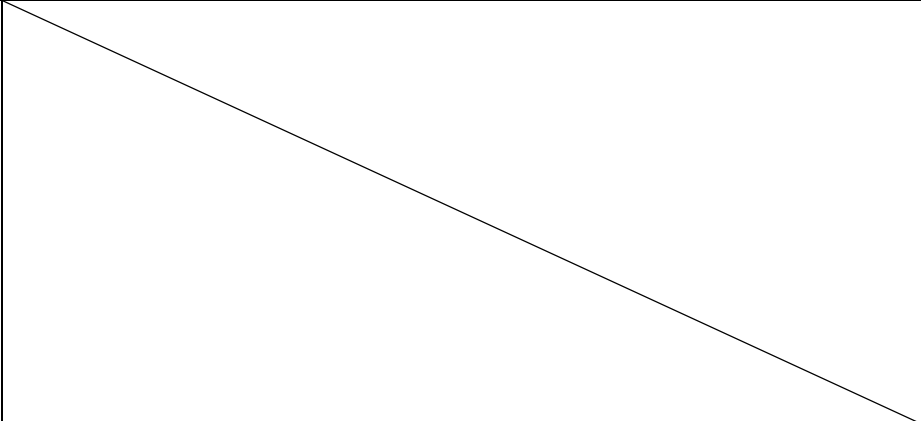
番 号	23	主 管 課	学校教育課
事 業 名	教育支援委員会事業		
施 策	特別なニーズに対応した教育の推進		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>学校教育法施行令第18条の2（保護者等の意見聴取）に基づき、長門市教育支援委員会（旧就学指導委員会）を設置している。教育学、医学、心理学、その他の就学に関する専門的知識を有する者等、教育委員会が委嘱した16人以内の委員をもって組織し、過半数以上の出席で年3回（5月、11月、1月）実施する。専門家の意見をもとに、児童生徒のよりよい就学につなげていく。</p>		
予 算 額 （決算額）	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度（当初）
	150,000 円 （ 126,620 円）	174,300 円 （ 146,300 円）	173,000 円
執 行 率	84.4 %	83.9 %	—
評 価  （取組状況 及び成果等）	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>教育支援委員会を年3回開催した。特に、次年度の就学に関わる第2回の教育支援委員会はかなりの時間を要するが、一人ひとりの就学に関わる大切なところであるため、丁寧に協議をいただいている。そのため、第2回では審議が決定せずに、第3回に継続審議となったケースも数件あった。</p> <p>【要検討児童生徒数】平成30年度152名 （平成28年度150名、平成29年度157名）</p> <p>○第1回 5月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度就学指導状況及び30年度の就学状況について</li> <li>・就学に係る協議 10名</li> </ul> <p>○第2回 11月8日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級在籍児童生徒の就学状況について 65名</li> <li>・新入学児童生徒（小・中学校新1年生）の教育支援について 36名</li> <li>・就学に係る協議 20名</li> </ul> <p>○第3回 1月10日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就学に係る協議 20名 その他、臨時委員会で1名の審議</li> </ul> <p>学校や保護者、本人のニーズをしっかりと把握し、それぞれの考えや思いを大切にしながら丁寧に審議することで、よりよい就学が可能となっている。また、児童生徒が適切な特別の支援を受けながら成長したことにより、特別支援学級から通常学級に措置替えをした事例もあった。さらに、特別支援教育への理解が進み、通常の学級から特別支援学級への措置替えを希望する保護者もいた。</p>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>ここ数年間、就学前の幼稚園や保育園等からの相談が増えており、保護者の特別支援教育に対する理解が進みつつある。しかしながら、就学時健康診断や教育相談において特別な支援が必要であるという結果が出ても、保護者や家族からの理解が得られずに、教育支援委員会の場で審議がされなかったり、審議はされてもその結果を受け入れることが難しいというケースがある。平成 28 年度から教育支援委員会に市の保健師も加えたことにより、早い段階での療育や保護者との相談が可能になったため、引き続き保護者との関わりを密にしていく必要がある。</p> <p>また、児童生徒や保護者の思いを尊重しつつ、丁寧な協議を重ねていくとともに、必要であれば、保護者へ詳しい説明を行うなど、本人や保護者にとってよりよい就学となるよう丁寧な対応を心がける。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 教育支援委員会事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何よりも障害を持った子どもにとってより良い就学にしていかなければいけないと思う。ただ、保護者や家族に理解してもらうのはすごく時間がかかると思う。従って、幼少期からの保育士や保健師の関わりがとても重要だと思う。</li> <li>・特別支援に関する保護者の理解が進んでいる一方で、まだまだ理解が得られない家庭もある。早い時期での相談ができるよう、保育園・幼稚園との連携体制を願う。</li> <li>・以前より理解は進んだとはいえ、特別支援学級か通常の学級なのかで、保護者や本人は不安や悩みを持つことと思う。これまで同様、就学前から保護者、本人との対話などを通して円滑に就学支援ができるようお願いする。</li> <li>・保護者の特別支援教育への理解が進んでいるようですが、引き続き保護者との関わりを密にして支援を進めていただきたい。</li> <li>・特別支援学級への保護者の理解が必要だが、なかなか難しいとは思う。</li> </ul>
----------------	---

番 号	24	主 管 課	学校教育課
事 業 名	防災教育推進事業		
施 策	特別なニーズに対応した教育の推進		
区 分	<input type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>地域防災の充実や担い手の育成を目標として、平成 24 年度から市内各中学校の代表生徒（中学 2 年生）と被災地である宮城県南三陸町の中学生との交流を実施してきた。</p> <p>平成 24～26 年度、及び平成 28 年度については、夏季休業中の 3 日間で南三陸町を訪問して視察や防災訓練参加等の活動を行い、平成 27 年度には、南三陸町の中学生を本市に招いて地域防災について学ぶプログラムを実施した。平成 29 年度には、本事業最終年度として、本市に再び南三陸町の中学生を招いてプログラムを実施する予定であったが、台風の影響により中止となったため、平成 30 年度に同様のプログラムを実施することとした。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度（当初）
	1,094,000 円 ( 2,000 円)	1,109,000 円 ( 810,184 円)	—
執 行 率	0.2 %	73.1 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>平成 30 年度は、本事業の集大成として、被災地から中学生を本市に招き、下記の内容で地域防災に係る研修を実施した。</p> <p>○実施日 平成 30 年 8 月 7 日（火）【防災研修交流（熟議）実施日】 【研修期間：8 月 6 日（月）～8 月 8 日（水）】</p> <p>○参加者 宮城県南三陸町の中学生 10 名 長門市内の中学生 15 名（各校 3 名）</p> <p>○研修内容 地域防災の担い手として、どのように取り組んでいくかを考えよう。</p> <p>「長門市と南三陸町の中学生の防災研修交流（熟議）」では、地域防災において今、『自分がしたいこと』『自分にできること』『社会が自分に求めていること』について熟議を行った。平成 28 年度に南三陸町を訪問した中学生を中心に、地域防災における中学生の担うべき役割について具体的かつ積極的な意見が出され、これまでの防災教育の成果を実感できた。熟議に参加した防災危機管理課職員や消防署員からも「中学生がここまで考えているとは感激した。今後も、地域での防災訓練などに積極的に参加して行って欲しい。」と講評をいただいた。</p>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	
----------------------------	--

〔 事 業 名 〕 防災教育推進事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災教育は、小・中学生の段階から必要だと思う。実際に被災地に行くことで学ぶことも多いと思うので、県内や近県の被災地を探して継続することはできないだろうか。</li> <li>・ 昨年度で防災教育推進事業は完了だが、危機意識を持って防災訓練等に積極的に参加してほしい。</li> <li>・ 災害の記憶と教訓はどんどん薄れていってしまう。個人的には継続していただきたい事業だが、終了したということで、別の形で防災教育の取組または支援をお願いする。</li> <li>・ 学んだことを生かし中学生が地域の中心となり長門市の地域防災に取り組んでいただきたい。また、交流活動で学んだ地域防災について市内で発表する場を設けてほしい。</li> <li>・ 被災地の学生と関わることで被災された地域の方々の大変さがわかると思うので、防災訓練に臨む姿勢も真剣になると思う。</li> </ul>
----------------	---

番 号	25	主 管 課	学校教育課
事 業 名	中学生海外派遣事業		
施 策	特別なニーズに対応した教育の推進		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>今後ますますグローバル化すると考えられる社会において、英語によるコミュニケーション能力や豊かな国際感覚が重要度を増していることに鑑み、基礎から一歩進んだ実践的な英語を学ぶとともに、異文化に触れたり現地の人々と交流したりする場を提供するために、市内中学生を海外に派遣する。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	1,928,000 円 (1,898,215 円)	2,033,000 円 (2,003,215 円)	2,831,000 円
執 行 率	98.5 %	98.5 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>平成 30 年度：派遣人数 6 名 (各中学校 1 名、深川中のみ 2 名。全員中学 3 年生)</p> <p>○研修先 ベトナム社会主義共和国</p> <p>○研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語研修：東部国際大学で外国人講師による研修</li> <li>・交流研修：現地の中学生、サイゴン山口県人会との交流会</li> <li>・見学研修：フジミツ現地工場、戦争記念館など</li> </ul> <p>○日程 平成 30 年 8 月 19 日 (日)～平成 30 年 8 月 27 日 (月)</p> <p>平成 29 年度から派遣先をベトナム社会主義共和国とし、一人当たりの派遣経費を抑えた。このことにより、6 名の中学生を海外に派遣することができた。</p> <p>参加した 6 名の生徒による本事業実施後の評価では、派遣先や研修内容についての設問に対して、全員が「よかった」または「大変よかった」と回答しており、好評であった。</p> <p>また、各中学校の文化祭で報告会を行い、参加していない生徒にも、英語力や国際感覚をもつことの大切さを伝え、成果を還元できた。</p>		



<p>課題と今後の取組</p>	<p>ベトナムの中学生との交流を通して、コミュニケーション力を身につけるとともに英語圏とは異なった東南アジアの文化に触れ、グローバルな視点で物事が考えられるようになった。現地の中学生との交流にももう少し時間が割けるとよかった。メインの英語研修では、5日間、東部国際大学で外国人講師による授業を受け、充実した英語研修を行った。</p> <p>令和元年度も、充実した英語研修と社会見学ができるベトナムへ6名の生徒を派遣する。ベトナムは山口県が経済交流を推進しており、治安の安定、物価の状況などを考えても、派遣先として適当であると考えている。</p> <p>令和元年度はこれまで課題であった引率者の数を2名に増員し、現地における指導・支援体制、緊急時の対応の充実を図る。</p>
-----------------	--

〔事業名〕 中学生海外派遣事業

<p>外部評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学での英語研修がメインということだが、本当にそれでいいのか疑問に感じる。各中学校の代表として海外に行くのだから、経験をしてきたことを他の生徒にも広めていくことが大切だと思う。そのためには、ベトナムの生徒との交流やホームステイなど積極的に他と関わる活動を仕組んで行く必要があるのではないだろうか。</li> <li>・派遣先をベトナムに決め引率者も増えたことで、より安心して現地中学生と交流ができると思う。これからもより多くの生徒が派遣できると良いと思う。</li> <li>・ベトナムでは地元企業の見学があり、語学研修とともに社会学の研修もでき非常に有意義ではなかったかと思う。引き続き行政が児童生徒に国際交流の機会を与えていただくことを期待する。</li> <li>・海外派遣で学ぶ事は多く、引率者の数を増員したことにより、安心して研修に取り組めると思う。これからも継続してほしい。</li> <li>・現地での体調管理等大変だと思うので、引率者を増やすのは安心だと思う。</li> </ul>
-------------	---

番 号	26	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課
事 業 名	成人式開催事業		
施 策	いつでもどこでも学べる機会の充実		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	市として新成人のお祝いを行うことにより、新成人としての意識づけとふるさと定住の一助とする。		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	1,129,000 円 (994,478 円)	1,132,000 円 (921,499 円)	1,143,000 円
執 行 率	88.1 %	81.4 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>平成 30 年度</p> <p>【開催日】平成 31 年 1 月 3 日</p> <p>【会 場】ルネッサながと</p> <p>【対象者】348 人 (H10.4.2 生～H11.4.1 生)</p> <p>出席者 265 人 (出席率 76.1%)</p> <p>【内 容】式典、アトラクション、記念撮影、恩師からのメッセージ 市内事業所からの協賛による抽選会 図書カード (記念品)</p> <p>実施後のアンケートでは、実施した内容について「良い」または「普通」と回答しており、記述に「自覚を持って社会に貢献していきたい。」や「今まで以上に社会人としての自覚をもっていきたい。」とあった。</p>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>式典の内容については、アンケートの結果をもとに、新成人のニーズに応じることができる部分については応えていく。</p> <p>令和4年より成人年齢が18歳となることから、今後の成人式の開催については、他の自治体の動向をみながら検討していく。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 成人式開催事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人の皆さんは大変楽しみにしている。また、人生の節目の行事でもあるので、ぜひ継続して開催していただきたい。</li> <li>・成人式の式典は、これまでどおり行われることを望む。内容については、アンケート等により検討していただけたらと思う。</li> <li>・成人年齢が18歳となる年にあたる生徒や保護者からは、成人式開催について「19歳は?」「20歳は?」の不安の声などが聴かれる。他市町村の動向を見ながら本市の開催要項などを決められるようだが、早めに方向性を示していただけたらと思う。</li> <li>・これから先、過ごす人生の中で、心に残る成人の集いとなるような式典を開催していただきたい。</li> <li>・必要な事業だと思う。</li> </ul>
----------------	--

番 号	27	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課
事 業 名	公民館指定管理事業		
施 策	いつでもどこでも学べる機会の充実		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要及び目標	<p>地域住民に公民館の管理・運営を委託する。</p> <p>【対象公民館】①俵山公民館 ②仙崎公民館</p> <p>【管理団体】①俵山地区発展促進協議会 ②仙崎振興会</p> <p>【委託期間】①平成30年4月1日～令和3年3月31日 ②平成31年4月1日～令和4年3月31日</p> <p>【目的】地域住民による公民館を中心とした社会教育の充実と地域の活性化</p>		
予 算 額 (決算額)	平成29年度	平成30年度	平成31年度(当初)
	23,466,000円 23,456,010円 ①11,662,000円 ②11,794,010円	23,347,000円 23,347,000円 ①11,788,000円 ②11,559,000円	23,787,000円 ①11,937,000円 ②11,850,000円
執 行 率	99.9%	100.0%	—
評 価  (取組状況及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>俵山公民館は、平成20年10月から俵山地区発展促進協議会を指定管理者としており、利用件数年間400件以上と、地域の学習拠点としての機能を発揮している。</p> <p>また、地元の各種団体と連携し、特にNPO法人ゆうゆうグリーン俵山が行う体験事業等に多くの地域住民が参加・参画しており、充実した公民館活動が実現できている。</p> <p>仙崎公民館についても、平成28年4月から仙崎振興会を指定管理者とし、利用件数年間600件以上と、学習拠点としての機能を発揮している。</p> <p>また、山口大学の学生と地域住民が、仙崎のまちづくりについての熟議を行う「地域づくり研修会」や、健康づくりや体質改善を目的に行う「コンディショニング講習会」、幼児から高齢者までの多世代交流促進を行う「三世代交流スポーツレクリエーション大会」、さらに平成30年度には、地元出身の油谷繁氏を講師に招き「陸上教室 in 仙崎」を開催し、地域住民が積極的に関わることで、地元ならではの地域づくりや、観光振興にもつなげる活動をしている。</p>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>両公民館とも地域課題の解決につながる活動を展開する上で、地域をけん引するリーダーやコーディネーターの人材育成が急務である。</p> <p>引き続き、各種研修会に参加するよう公民館職員に指導するとともに、若い世代の人材育成や、地域住民の参画を促す仕組みづくりを行い、地域の活性化につなげていく。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 公民館指定管理事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館指定管理事業になって、地域住民が公民館活動に積極的に参加されているようだが、その状況が市民に伝わっていないように感じる。もっと広く周知していただきたい。</li> <li>・俵山・仙崎公民館の事業は、地域を活性化する大切な役割を担っている。人材育成やコーディネーターの育成等大変な苦勞もあると思うが、住み良い地域づくり街づくりの見本となるよう期待している。</li> <li>・俵山、仙崎公民館の利用件数がそれぞれ 400 件以上、600 件以上と想像以上に充実した活動がされていると思った。地域住民が管理・運営に積極的に取り組まれていることがよくわかる。課題にあった、若い世代の人材育成と地域住民の参画を促す仕組みづくりは急務だと思う。</li> <li>・両公民館とも地域との連携による地域住民活動が、地域の活性化につながられている。他の地域でも地元ならではの取組により成果が出るよう期待している。</li> <li>・地域住民ならではの行事の開催で地域活性化にもつながりいいと思う。</li> </ul>
----------------	--

番 号	28	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課
事 業 名	図書館充実事業		
施 策	いつでもどこでも学べる機会の充実		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書等資料の充実</li> <li>・子どもの読書活動推進</li> <li>・音楽、映画、講演会等の各種事業の実施</li> </ul> <b>【目標】</b> 図書館の利用促進と図書館機能の向上		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	9,291,000 円 (9,156,661 円)	9,819,000 円 (9,636,094 円)	9,362,000 円
執 行 率	98.6 %	98.1 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>○司書による選書や利用者からのリクエストによる収集を行い、蔵書の充実を図った。また、収集だけにとどまらず、相互貸借による資料提供サービスに努め、利用者の求めに対応した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸出数 (個人、団体等全館計) 191,056 点 (前年度 191,126 点)</li> </ul> <p>○「図書館を使った調べる学習コンクール」を開催し、図書館利用の促進及び児童・生徒が「自ら考え、課題を解決する力」「表現する力」の育成を図る機会とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べる学習ラクラク講座 1 回</li> <li>・コンクール応募総数 38 作品 (小学生 26 作品・中学生 12 作品)</li> <li>・コンクール審査結果 最優秀賞 4 作品、優秀賞 8 作品</li> <li>・全国コンクールへの推薦 2 作品 (内 佳作 2 作品)</li> </ul> <p>○その他以下の事業及びサービス等により、人員、予算とも限られた中で、魅力ある図書館の創出を効果的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館コンサート 1 回、映画上映 21 作品、図書館まつり 1 回</li> <li>・ナイトライブラリー 3 回、やまぐちの歴史お出かけ講座 1 回</li> <li>・講演会等 2 回、職員一講座 1 回、おもちゃの森 12 回</li> <li>・BGM を流す</li> <li>・無線 LAN 利用サービス</li> <li>・新着資料配信サービス</li> <li>・読書用補助具 (拡大鏡など) の館内貸出</li> <li>・雑誌スポンサー制度導入</li> </ul>		

<p>課題と今後の取組</p>	<p>図書館サービスに対する市民ニーズの多様化に伴い、図書館資料やレファレンスサービスの充実を図り、職員の更なる意識改革、資質向上に努める。</p> <p>人口減少に伴い利用者が減少傾向にある中、図書館に何が求められているのかを検証し、事業の継続または見直し等を検討するとともに、居心地の良い施設空間となるよう環境整備に一層努める。</p> <p>また、巡回車による貸し出しなどの取組も行っているが、引き続き、高齢者をはじめとした「図書館を利用しづらい人」たちへのサービスの充実を図っていきたい。</p>
-----------------	--

〔事業名〕 図書館充実事業

<p>外部評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の中で図書館を利用している人としていない人は、はっきりと分かれているように思う。利用者の意見だけでなく、利用していない人の意見もしっかり聞き、対応を工夫されることをお願いしたい。</li> <li>・魅力ある図書館にするために、様々なサービスを提供されている。これからもより一層利用しやすい図書館運営を望む。</li> <li>・人口減少や活字離れにより利用者が減少傾向といわれる中、貸出数がここ2年は横ばいとなっているので、利用者サービスへの工夫がなされているのではないかと思う。</li> <li>・多角的、多面的な情報が求められる現在、図書館も例えば「本を貸す」、「映画鑑賞する」など個々単一のサービスではなく、地域の広場となり、多用なニーズに対応する情報提供ができるようサービスを充実させていくことが必要だと思う。</li> <li>・小さい子を連れて行きづらい。子どもを連れて行けないと利用したくてもできない人もいる。子どもがいても図書館が利用しやすいように仕切りなど作ってほしい。</li> </ul>
-------------	---

番 号	29	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課
事 業 名	スポーツ教室・健康医学講習会開催事業		
施 策	いつでもどこでも学べる機会の充実		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>各種スポーツ教室を開催し、市民が健康で豊かな生活を送るための機会を提供することで、市民が、各種スポーツの基本を学びスポーツに親しむ機会を増やし、健康の維持増進を図ることを目的とする。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	649,000 円 ( 357,000 円)	486,000 円 ( 442,664 円)	593,000 円
執 行 率	55.0 %	91.1 %	—
評 価  ( 取 組 状 況 及び成果等 )	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>平成 23 年度から取り組んでいるチャレンジ・ザ・ゲームの普及・啓発を図るため、スポーツ推進委員会を中心に、子ども会や PTA 集会、小学校のクラブ活動、スポーツ少年団事業、中央公民館まつり、長門市体育協会主催の市民スポーツフェスティバルなど各種イベントへ出向き、競技の講習や記録会を開催している。</p> <p>また、これまでに普及を図ったスポーツの推進だけでなく、運動が苦手な人や体を動かすことが嫌いな人でも楽しめるよう、スポーツ推進委員会が独自に開発した「パター・de・ビンゴ」の普及にも、引き続き取り組んだ。</p> <p>さらに、広報啓発活動として、平成 29 年度に開設したスポーツ推進委員の Facebook ページにおいて、競技方法等の動画発信を継続して行っている。</p>		



<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>今後も、市民がスポーツに親しむ機会を増やすため、研修会や出前講座を行い、チャレンジ・ザ・ゲームの教室を開催していく。また、Facebookも活用しながら、「パター・de・ビンゴ」の普及に努める。</p> <p>各種研修会に参加し、スポーツに関する幅広い知識の習得を図るとともに、他市との交流を深め、それぞれの取組を学び、より市民がスポーツに親しめる取組につなげていきたい。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 スポーツ教室・健康医学講習会開催事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進委員の皆さんの取組には感謝している。高齢化社会に向けて、保健センター等と連携された取組があると良いと思う。</li> <li>・多くの市民がスポーツに親しむ機会が増えたら良いと思う。特に高齢者にとっても参加しやすいスポーツ競技を取り入れてほしい。</li> <li>・ニュースポーツ「パター・de・ビンゴ」は、結果の意外性がありゲーム性も高く、スポーツが得意な人と苦手な人が楽しめる素晴らしい競技だと思う。</li> <li>・スポーツ推進委員を中心とした活動は、スポーツで市民に心身の健康を増進させ人と人との交流を生み出し地域を活性化していると思う。これからも取り組んでいただきたい。</li> <li>・いろいろな世代が参加でき楽しめるイベントをされていて、継続していただきたい。</li> </ul>
----------------	---

番 号	30	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課																											
事 業 名	長門市体育協会補助金交付事業																													
施 策	いつでもどこでも学べる機会の充実																													
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了																													
事業の概要 及び目標	<p>本市における中核的なスポーツ団体組織である長門市体育協会の活動及び運営について支援をすることで、加盟団体の育成強化と市民の生涯スポーツ活動の推進を図る。</p>																													
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)																											
	13,797,000 円 ( 11,984,243 円)	13,657,000 円 ( 12,413,208 円)	13,657,000 円																											
執 行 率	86.9 %	90.9 %	—																											
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る																													
	<p>長門市体育協会は、18 の競技団体と 7 地区のスポーツ振興会が加盟する中核的なスポーツ団体である。指導者育成研修会の開催をはじめ、加盟団体の指導・育成にあたるとともに、長門大津駅伝大会や長門大津柔剣道祭も団体等と共催している。</p> <p>また、協会の自主事業として市民ハイキングやグラウンドゴルフ大会、市民スポーツフェスティバル、市民駅伝大会等の各種大会を開催し、市民のスポーツ振興、体力・競技力の向上を図っている。</p> <p>○長門市体育協会の決算内訳</p> <table border="0"> <tr> <td>支出</td> <td>事務局人件費</td> <td>8,348,487円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務費</td> <td>1,620,399円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>事業費</td> <td>2,197,222円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>負担金補助及び交付金</td> <td>824,900円</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>計</td> <td>12,991,008円</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>収入</td> <td>大会参加負担金等</td> <td>577,800円</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>差引 (①-②)</td> <td>12,413,208円</td> <td>を補助</td> </tr> </table>			支出	事務局人件費	8,348,487円			事務費	1,620,399円			事業費	2,197,222円			負担金補助及び交付金	824,900円			計	12,991,008円	①	収入	大会参加負担金等	577,800円	②		差引 (①-②)	12,413,208円
支出	事務局人件費	8,348,487円																												
	事務費	1,620,399円																												
	事業費	2,197,222円																												
	負担金補助及び交付金	824,900円																												
	計	12,991,008円	①																											
収入	大会参加負担金等	577,800円	②																											
	差引 (①-②)	12,413,208円	を補助																											

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>加盟団体の競技力向上を図るため、今後も支援を続けていく。 また、多くの市民参加が期待できるスポーツ大会等の開催についても、円滑に行えるよう支援していく。 各事業とも反省点を踏まえ事業改善しているが、特に人気の高い事業（市民駅伝や市民ハイキング等）については、更に充実させるよう、重点的に取組を支援していく。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 長門市体育協会補助金交付事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の実態に応じて重点的な取組をされていることは、とても良いと思う。競技力の向上とともに、競技人口を増やす取組もお願いしたい。</li> <li>・多くの市民が参加できるスポーツ大会等は、今後とも継続開催をお願いしたい。</li> <li>・市民駅伝大会は長門市の一大イベントとなった。多くの市民の協力で大会が成り立っており、素晴らしいことだと思う。</li> <li>・いろいろなスポーツ大会の見直しを行いマンネリ化しないようにしながら、市民誰もが気軽に参加できるよう継続してほしい。</li> <li>・市民が参加できるイベントをされていて、子どもから高齢者まで幅広く参加でき、楽しめるのでいいと思う。</li> </ul>
----------------	--

番号	31	主管課	生涯学習スポーツ振興課	
事業名	ウルトラマラソン開催事業			
施策	いつでもどこでも学べる機会の充実			
区分	■継続		□新規	□完了
事業の概要及び目標	<p>長門市スポーツ推進計画で「スポーツによる地域の活性化」の主要施策に挙げられているマラソン事業を、風光明媚な長門市の特色を生かしたスポットを巡るコースとすることにより、スポーツ振興及びスポーツコミュニティの創出につなげる。</p> <p>油谷・日置地区の一般道を利用してダブルフルマラソン（84.39km）、シングルフルマラソン（42.195km）、棚田ウォーク（30km）の3部門で開催し、平成30年度は定員を1,429名〔W:629（ムツ）名、S:500名、棚:300名〕で募集した。</p>			
予算額 （決算額）	平成29年度	平成30年度	平成31年度（当初）	
	5,377,993円 （5,085,403円）	4,905,000円 （4,860,494円）	4,885,000円	
執行率	94.6%	99.1%	—	
評価  （取組状況及び成果等）	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る			
	○開催日：平成30年6月10日（日）			
	種目	申込数	出場数	完走（歩）数
	ダブルフルマラソンの部	476名	404名	335名
	シングルフルマラソンの部	549名	465名	444名
棚田ウォークの部	322名	270名	268名	
計	1,347名	1,139名	1,047名	
<p>募集定員を900名から1,429名に増員し開催した。</p> <p>第1回大会の反省点を踏まえ、各種改善を図った。</p> <p><b>【主な改善点】</b></p> <p>給水所の増設、会場やコース上の仮設トイレ増設、各給水所に飲料冷却用の氷を配布、距離表示の追加</p> <p>参加者からは、運営に一定の評価をいただき、また、ボランティアスタッフの対応、地域の方々の声援に対しては高い評価をいただいた。</p> <p>第3回大会は、更に募集定員を増やし開催する。</p>				

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>第1回大会の反省点を踏まえて、仮設トイレの増設や距離表示の追加等の改善をしたことにより、参加者からは一定の評価をいただいたが、シャトルバスの混雑、リタイヤ者の輸送の遅れ、提供物の不足など参加者増員への対応ができなかった。</p> <p>令和元年度の大会では、参加者増員に対応するとともに、表彰区分の充実、提供物の地元産使用率の増加など、参加者サービスの向上を最優先に準備を進めている。</p> <p>また、過去の大会映像を使用したプロモーションビデオを作成し、ホームページで公開、ほっちゃんテレビ、イベント等で放映しており、今後も引き続きPRしていく。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 ウルト라마ラソン開催事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長門の素晴らしい自然の中で人々の温かさに触れあえる大会になっていると思う。ボランティアの皆さんは大変だと思うが、今後も継続していただきたい。</li> <li>・年々参加者が増えていることはとても良いことである。参加者増加に対する対応等難しい面もあると思うが、長門市のスポーツ振興のため継続していただきたい。</li> <li>・ウルト라마ラソンは、参加者も増えイベントとして着実に定着している。ボランティアスタッフからは、改善の要望があったと聞いている。問題点が改善され次回に生かせるようにしていただきたいと思う。</li> <li>・ウルト라마ラソンは、開催場所が油谷・日置と市中心部から外れている為、市民の認知度が今一つではないかと思う。長門市全域で作りに上げて行く大会になればと願う。</li> <li>・地域全体で盛り上げていてすごいと思う。これからも継続していただきたい。</li> </ul>
----------------	---

番 号	32	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課		
事 業 名	我がまちのスポーツ推進事業				
施 策	いつでもどこでも学べる機会の充実				
区 分	■継続		□新規	□完了	
事業の概要及び目標	<p>山口国体の成果を地域づくりにつなげるため、国体開催競技を「我がまちスポーツ」として位置付け、競技の普及・定着を図るとともに、国体開催により整備されたスポーツ環境、培われた幅広い人材等を活用し、地域活性化の取組を推進する。平成29年度まで、地域スポーツ人口拡大推進事業で実施していたスポーツ合宿奨励金事業を、平成30年度以降は「我がまちのスポーツ推進事業」としてラグビーに特化して実施する。</p> <p>予算措置 ラグビー合宿奨励金事業 1,000,000円  スポーツ振興補助事業 500,000円</p>				
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)		
	4,000,000 円 (4,000,000 円)	1,500,000 円 (1,376,999 円)	1,500,000 円		
執 行 率	100 %	91.8 %	-		
評 価  (取組状況及び成果等)	□目標を上回る ■目標どおり □目標を下回る				
	○ラグビー合宿奨励金事業実績(長門市観光コンベンション協会主体)				
	年度	人数 (泊)			
		社会人	高校生	中学生	計
平成 27 年度	196	792	65	1,053	
平成 28 年度	132	958	0	1,090	
平成 29 年度	220	930	0	1,150	
平成 30 年度	200	627	0	827	
○スポーツ振興補助事業(ながとスポーツ財団主体)					
開催日	事業内容				
平成 30 年 6 月 21 日	英語を使ったラグビー教室 (幼稚園児)				
平成 30 年 6 月 23・24 日	英語を使ったラグビー教室 (小学生)				
平成 30 年 7 月 11 日	英語を使ったラグビー教室 (幼稚園児)				
平成 30 年 7 月 20 日	大津緑洋高校国際交流				
平成 30 年 7 月 21・22 日	7人制ラグビー大会「ながとセブンズ」開催				
平成 30 年 11 月 25 日	ラグビー教室 (ちびなが商店街)				
平成 31 年 2 月 22 日	英語を使ったラグビー教室 (幼稚園児)				
平成 31 年 3 月 12 日	英語を使ったラグビー教室 (幼稚園児)				

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>今後ラグビー競技の更なる普及・定着を図っていくうえで、取組を一過性の活動にとどめることなく長期的・継続的に行っていくためには、市外・県外からの合宿を誘致するだけでなく、市内の学校、地域及び行政が連携し我がまちスポーツに身近に触れることができる環境づくりを推進するとともに、地域のスポーツ団体とも連携を図り、指導者等の派遣を行うなどの体制づくりが課題となる。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 我がまちのスポーツ推進事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タグラグビーの取組は、進んできているように思う。深川小が県大会で3位だったと聞いた。大津緑洋高校も、生徒数は減少しているが7人制ラグビーで頑張っている。また、ながとブルーエンジェルスが女子リーグで総合優勝するなど、「長門＝ラグビー」の機運は盛り上がってきているように思う。ラグビーワールドカップ開催の今年、ますますラグビーに興味・関心を持つ市民が増えていくような取組を推進していただきたい。</li> <li>・令和元年度ラグビーワールドカップのキャンプ地になったことから、市民の関心も高まっている。英語を使ったラグビー教室など、とてもよい取組だと思うので、今後もぜひ継続して行ってほしい。また、整備された俵山ラグビー場をこれからも有効活用していただきたい。</li> <li>・市民の中には、ラグビー競技に関心を持たれていない方もまだまだ多いと思う。市民がラグビーをもっと身近に感じ関心を持てるように、地元選手の協力を得ながら取り組んでいただきたいと思う。また、子どもたちや地域住民とのラグビー教室など、これからも継続していただきたいと思う。</li> <li>・ながとブルーエンジェルスの活躍により長門市民のラグビーへの関心は高まっていると思う。英語でコミュニケーションをとりながらのラグビー教室も、生の英語とラグビーを体験することができるいい機会だと思う。小学生や中学生にも行ってもらいたい。</li> <li>・少子化に伴う人口減少と競技の多様化で、競技人口の裾野を広げていくことは今後大変だと思う。小学生までのラグビー教室があるが、その後の受け皿がないように思う。</li> <li>・合宿チームの誘致には観光協会が主体となって実績をあげられているが、どうせやるならば、“合宿地といえば長門”と言われるように資金を投入しても良いと思う。</li> </ul>
----------------	--

番号	33	主管課	生涯学習スポーツ振興課																				
事業名	地域スポーツ人口拡大推進事業																						
施策	いつでもどこでも学べる機会の充実																						
区分	■継続		□新規	□完了																			
事業の概要及び目標	山口国体で培われた「する」「観る」「支える」人材を更に増幅させ地域スポーツとして根付かせるために、競技人口の拡大と運営能力の向上を図る。「サイクル県やまぐち」の事業と連携しつつ、補助金に頼らないサイクリング事業の展開を図る。																						
予算額 (決算額)	平成29年度	平成30年度	平成31年度(当初)																				
	4,000,000円 (4,000,000円)	3,000,000円 (3,000,000円)	3,000,000円																				
執行率	100.0%	100.0%	-																				
評価  (取組状況及び成果等)	□目標を上回る ■目標どおり □目標を下回る																						
	<p>1. 広域的展開事業</p> <p>○ブルーオーシャンライド with 秋吉台 開催日：平成30年11月24日(土)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コース</th> <th>申込</th> <th>出走数</th> <th>完走数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サイクリング</td> <td>329名</td> <td>297名</td> <td>284名</td> </tr> <tr> <td>トレイン(ミドル)</td> <td>56名</td> <td>52名</td> <td>48名</td> </tr> <tr> <td>トレイン(ショート)</td> <td>55名</td> <td>52名</td> <td>50名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>440名</td> <td>401名</td> <td>382名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○観光サイクリング事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクルステーションの運営</li> <li>・ながとフォトサイクリングの開催</li> </ul> <p>2. サイクリスト交流事業</p> <p>ナショナルチームにも所属している一丸尚伍選手を招聘し、深川中学校の生徒及び一般参加者を対象に、初心者向け自転車教室及びサイクルイベント(ブルーオーシャンライド mini)を開催した。</p>				コース	申込	出走数	完走数	サイクリング	329名	297名	284名	トレイン(ミドル)	56名	52名	48名	トレイン(ショート)	55名	52名	50名	合計	440名	401名
コース	申込	出走数	完走数																				
サイクリング	329名	297名	284名																				
トレイン(ミドル)	56名	52名	48名																				
トレイン(ショート)	55名	52名	50名																				
合計	440名	401名	382名																				



<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>県の補助対象事業の要件が厳しくなりつつあることから、今後補助金に頼らない事業実施方法を確立していく必要がある。</p> <p>ブルーオーシャンライドをサイクリング事業のシンボルイベントとして開催し、交流人口の拡大を図るとともに、情報を発信することで、イベント時だけでなく日常的に長門市にサイクリストを集める仕組みづくり、サイクリストに自転車に乗る場所として選ばれる環境づくりを推進する。</p> <p>また、サイクリスト交流事業では、自転車に触れる機会を創り、スポーツの振興を図るとともに新たなファンの獲得をめざす。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 地域スポーツ人口拡大推進事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような事業があることを市民はほとんど知らないのではないかと思う。広報活動をしっかり行い、市民に浸透させていくことが大切ではないかと思う。</li> <li>・サイクルイベント等市民が参加しやすい交流事業をこれからも進めていただきたい。</li> <li>・個人的には「サイクル県やまぐち」はまだまだ浸透していないのではないかと思う。秋吉から山口へ続くサイクルロードがあるが、経年で環境も悪くなり、もったいないなといつも思っている。</li> <li>・市民誰もが、地域開催のスポーツ大会にどんな形でも良いから参加できるよう、また、関心を持てるように周知していただきたい。</li> <li>・これからも継続していただきたい。</li> </ul>
----------------	---

番 号	34	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課
事 業 名	人権教育促進事業		
施 策	いつでもどこでも学べる機会の充実		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>一般市民や学校関係者、企業の方々などを対象に、市内各地で年3回の人権教育セミナー及び年1回の人権フェスティバルをそれぞれ開催し、人権問題についての正しい理解を深めるとともに、人権意識の高揚を図る。</p> <p>【目標】人権意識の向上や人権についての啓発・啓蒙</p>		
予 算 額 (決算額)	平成29年度	平成30年度	平成31年度(当初)
	589,000円 (509,699円)	683,000円 (547,389円)	686,000円
執 行 率	86.5%	80.1%	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>平成30年度長門市人権教育取組指針を基に幅広く人権課題を扱うことに力を入れ、セミナー3回とフェスティバル1回を実施した。実施後のアンケートでは参加者から高い評価を得ており、市民の人権意識の向上・啓発につながったと考えている。</p> <p>○第1回人権教育セミナー 平成30年7月25日 参加者 約150人 講演「ネットトラブル事件簿 ～子どもたちを加害者にも被害者にもしないための ポイント解説～」</p> <p>○第2回人権教育セミナー 平成30年9月22日 参加者 24人 ビデオフォーラム</p> <p>○第3回人権教育セミナー 平成30年12月2日 参加者 約140人 講演「救急現場が教えてくれた命の輝き ～言葉は心を伝えるためにある～」</p> <p>○人権フェスティバル 平成30年11月10日 参加者 約170人 講演「ウサブロウのゆかいな人権問題 ～動物の親子のふれあいから学ぶ人権問題～」</p>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>人権教育セミナー及び人権フェスティバルへの参加者の確保に苦慮しているが、人権意識の向上につながるよう、引き続き、啓発活動を行っていく。</p> <p>実施後のアンケートを参考に、講演内容について検討を行っており、参加者のアンケート結果からも内容については高い評価を得ているが、参加につながらない状況にある。今後も内容はもとより、周知方法や範囲についても工夫しながら取り組んでいきたい。</p>
----------------------------	---

〔事業名〕 人権教育促進事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識の向上や人権についての啓発・啓蒙は、とても大切な事業だと理解している。しかし、毎年、参加者の確保に苦労されている実態から、例えば、他の事業と一緒にやってみるとか、やり方を工夫していくことも必要なのではないか。</li> <li>・人権教育セミナーの参加者が少しでも増えるよう、講演内容の検討や周知方法の工夫等にこれからも取り組んでほしい。</li> <li>・私も PTA 活動などを通じて人権教育セミナーなどの講演を聞く機会があったが、非常に有意義だった。ただ、他の行事も多い中で日程を調整して参加することは容易ではなかった。題目が固いので一般の方は参加するにあたってハードルが高いのではないかと思う。何かの行事にあわせて行うなど参加者確保について考える必要があるのではないかと思う。</li> <li>・市民一人ひとりが人権問題について正しく理解することが大切だと思う。意識向上のための働きかけが必要と思う。</li> <li>・これからも継続していただきたい。</li> </ul>
----------------	--

番 号	35	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課
事 業 名	放課後子ども教室推進事業		
施 策	家庭・地域・学校の連携を強化し、学習成果を生かす協働の促進		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	放課後の子どもたちの安全で健やかな居場所づくり。 【対 象】 小学1年生～6年生 【実施校】 通小学校、向陽小学校、俵山小学校、神田小学校 向津具小学校 【目 標】 各放課後子ども教室の支援		
予 算 額 (決算額)	平成29年度	平成30年度	平成31年度(当初)
	7,017,000円 (6,268,285円)	6,800,000円 (6,317,691円)	7,022,000円
執 行 率	89.3%	92.9%	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	現在、市内の小規模校5校を対象に、「放課後の子どもの居場所づくり」を推進している。地域の方々の参画を得ながら、宿題等の学習活動をはじめ、凧作りや詩吟、茶道教室等の体験活動を行った。  登録率(登録人数/在籍人数)及び開催日数 通小学校 90.0%(18人/20人) 51日開催 向陽小学校 76.2%(48人/63人) 192日開催 俵山小学校 55.6%(15人/27人) 188日開催 神田小学校 57.9%(11人/19人) 154日開催 向津具小学校 62.5%(15人/24人) 153日開催 ※ 通小は火・金開催、向津具小は月・水～金開催、その他は月～金開催)		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>現スタッフの高齢化も進んでおり、放課後子ども教室に携わるスタッフの確保が困難となっており、引き続き、人材確保に努めるとともに、現スタッフについては、交流研修会を行い、一同で研修、交流することで意識向上を図るなど、人材育成に取り組む。</p> <p>また、放課後児童クラブと放課後子ども教室との連携が図られるよう、事業間の調整を行っていく。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 放課後子ども教室推進事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室を参観させていただき、指導されておられる方の苦労や喜びを感じることができとても良かった。働いている親としては、とてもありがたい事業だと思う。ぜひ、今後の継続をお願いしたい。</li> <li>・解放感からか活発な児童相手に、携わるスタッフは大変だと思う。学校・行政と情報を共有する場を持ち、無理をせず進めていただきたい。</li> <li>・向陽地区の放課後子ども教室では、スタッフの方が献身的に携わっていらっしゃった。「児童が悪いことをしたならば、ちゃんと叱りそのことを保護者の方へも理由を示して説明しています」とお伺いしとても好感が持てた。スタッフの高齢化が進んでいるというお話も伺ったが、児童の保護者がスタッフの子ども世代だからこそ、できることもあるのだなと思った。</li> <li>・放課後子ども教室はスタッフにより成り立っている素晴らしい事業である。少ない人材で高齢化も進んでいるようだが、人材確保や育成に支援をお願いしたい。</li> <li>・地域の方々と子どもたちが関わっていていいと思う。</li> </ul>
----------------	---

番 号	36	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課
事 業 名	家庭教育支援事業		
施 策	家庭・地域・学校の連携を強化し、学習成果を生かす協働の促進		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>小・中学校及び保育園、幼稚園、幼児園に家庭教育学級を開設し、学級運営に役立つ研修会や意見交換会の実施、さらには幼児期の学習支援や相談事業を行い、家庭の教育機能の向上と幼児・児童・生徒の健全育成を図る。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	545,000 円 ( 394,500 円)	515,000 円 ( 378,500 円)	515,000 円
執 行 率	72.4 %	73.5 %	—
評 価  ( 取 組 状 況 及び成果等 )	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>各家庭教育学級では、学級生の確保や講座の内容について苦勞しながらも、市の補助基準に沿って確実に実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 30 年度実施 小学校 11 校、中学校 5 校、保育園 2 園、幼稚園 1 園</li> </ul> <p>意見交換会や合同研修会など家庭教育学級生の学習会を開催したことにより、学級の運営について理解が深まり、工夫された運営につながった。</p> <p>また、就学時健康診断の際には、県の家庭教育アドバイザー養成講座修了者で構成される家庭教育支援チームによる子育て講座や、保護者の交流会を実施している。</p>		

<p>課題と今後の取組</p>	<p>質の高い家庭教育学級の運営のため、必要に応じて個別指導を行ったり、家庭教育学級が運営する行事に担当の社会教育指導員が積極的に参加したりするなど、家庭教育学級や学校と連携を築いている。</p> <p>平成30年度からは、合同説明会での事業説明から、担当者が各学校へ個別訪問し説明する方法に変更したが、気軽に相談でき、情報共有も図られると好評であったことから、今後もこの方法で行っていく。</p> <p>就学時健康診断時の子育て講座等、家庭教育の大切さを周知しながら、家庭での悩みや不安に対しても、家庭教育支援チームと共に支援していく。</p>
-----------------	---

〔事業名〕 家庭教育支援事業

<p>外部評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に訪問して各学校の希望を聞いて、家庭教育学級を開催しておられることは、とても良いと思う。</li> <li>・家庭教育アドバイザーによる子育て講座や保護者との交流を、これからも積極的に行われると良いと思う。</li> <li>・大規模の学校では、家庭教育学級の活動が一部の保護者の活動になっており、また、PTA 行事もある中で、全体に広まらない悩みがあるようである。学級長はじめ学級生は講座の企画から参加者募集、広報紙や報告書の作成などかなり精力的に活動されているようだが、一部の保護者の負担になるようならば、見直しも必要ではないかと思う。</li> <li>・学校・保護者との連携を築いて、家庭教育学級の運営を理解し支援していただきたい。</li> <li>・これからも継続していただきたい。</li> </ul>
-------------	--

番 号	37	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課	
事 業 名	文化財保護・活用事業			
施 策	次世代への地域文化の継承			
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了			
事業の概要及び目標	<p>ながと歴史民俗資料室及び日置歴史民俗資料館において、本市の埋蔵文化財や民俗資料、歴史資料等を常設展示している。</p> <p>また、ながと歴史民俗資料室においては、企画展を年2回、山口県埋蔵文化財センターの巡回展を毎年1回実施し、あわせて長門市文化財保護協力員の研修会を開催している。</p> <p>これらの事業を核に、地域文化財の保存・管理と地域文化の伝承に取り組んでいく。</p>			
予 算 額 (決算額)	平成29年度	平成30年度	平成31年度(当初)	
	1,550,668円 (1,428,860円)	1,722,000円 (1,642,043円)	9,411,000円	
執 行 率	92.1%	95.4%	—	
評 価  (取組状況及び成果等)	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標を下回る			
	○ながと歴史民俗資料室 昔の農具等の常設展示及び企画展を行っている。常設展示では小学校3校が歴史授業で来室し、昔の農業について展示品に触れながら学習している。また、収蔵品の貸出しや文化財の説明を学校にて行った。			
	企画展名	内 容	期 間	入館者数
	発掘された長門	長門深川廃寺などの出土品を展示	10月1日 ～31日	237人
	発掘された山口	下津令遺跡などからの出土品を展示	11月3日 ～12月2日	148人
	ながとの小学校	小学校の写真や教科書等を展示	2月4日 ～3月22日	315人
	入館者：平成30年度700人 3回実施 平均233人 (平成29年度712人 5回実施 平均142人)			
	○日置歴史民俗資料館 日置農村環境改善センター職員が見学者に対応している。 入館者：平成30年度163人(平成29年度65人) 平成30年度は、日置ふるさとまつり時以外に日置小・神田小・仙崎小等(116名)の歴史授業等における入館が主である。			



<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>ながと歴史民俗資料室では、常設展（民俗資料農具展示）の入館者が少数（H30:18人）にとどまっている現状にある。</p> <p>教育委員会事務局の新本庁舎移転に伴い、現教育委員会庁舎を「長門市歴史民俗資料館（仮称）」として活用する方向で検討する中で、現庁舎の耐震診断などの業務に着手している。</p> <p>資料館の在り方に関しては、市内文化団体等から提出された要望書を尊重しつつ、「長門市歴史民俗資料館整備運営検討委員会」において総合的な方向性等について意見を伺いながら、市の文化財施策の拠点として機能する施設となるよう事業を遂行していきたい。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 文化財保護・活用事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長門市歴史民俗資料館として再スタートを切られるようだが、市民の皆さんに興味を持って来館してもらえるような資料館になることを期待したい。</li> <li>・歴史民俗資料室には貴重な収蔵品が展示してある。学校の授業に大いに活用してほしい。また、市民が気軽に行けるような魅力ある企画展等も開催してほしい。</li> <li>・ながと歴史民俗資料室は児童生徒の学習に非常に有益なものと思うが、一般市民の私たちには足が向かない施設である。新庁舎移転の機会に市民が気軽に入れる施設となるよう期待する。</li> <li>・学校の授業や祭り以外に、市内外でのイベント等に資料館を活用する取組を実施できたらと思う。</li> <li>・もっと市内の小・中学校で利用していけたらいいと思う。</li> </ul>
----------------	--

番 号	38	主 管 課	生涯学習スポーツ振興課
事 業 名	地域文化継承事業		
施 策	次世代への地域文化の継承		
区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 完了		
事業の概要 及び目標	<p>鯨や漁村文化に係る民俗資料の保存、展示を行う「くじら資料館」及び郷土の先賢である村田清風及び周布政之助の遺品や歴史民俗資料を展示する「村田清風記念館」の運営、維持管理を行う。</p> <p>これらの事業を行うことで、くじら文化や村田清風の業績に対する理解を広げ、ひいては、地域文化財の保存・管理と地域文化の伝承に寄与する。</p>		
予 算 額 (決算額)	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (当初)
	21,990,000 円 (20,981,337 円)	15,164,000 円 (13,741,866 円)	14,861,000 円
執 行 率	95.4 %	90.6 %	—
評 価  (取組状況 及び成果等)	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標を下回る		
	<p>○くじら資料館 国指定有形民俗文化財である「長門の捕鯨用具」を保存・展示しており、要望により来館者に対する説明も行っている。 入館者：平成 30 年度 6,599 人 (平成 29 年度 8,254 人)</p> <p>○村田清風記念館 村田清風の偉業を周知・啓蒙する自主事業として村田清風競書大会や古文書講座を開催。 また、平成 30 年は明治維新 150 年であり、記念事業として特別講演会を 2 回行った (8 月・136 名、11 月・138 名)。 3 月からは幕末・明治期の未知の時代を切り拓いた郷土の先人たちの「志」や「行動力」を 360 度 VR (バーチャルリアリティ) で体験できる機器を設置している (視聴料 50 円)。 入館者 : 平成 30 年度 4,248 人 (平成 29 年度 5,068 人) 競書大会参加者 : 平成 30 年度 59 人 (平成 29 年度 57 人) 古文書講座参加者 : 平成 30 年度 27 人 (平成 29 年度 36 人)</p>		

<p>課 題 と 今 後 の 取 組</p>	<p>村田清風記念館では、特別記念講演会を2回実施し、延べ274名と多くの方が参加された。収容人数の関係で会場を三隅支所としたため、記念館への直接的な来場者は増えなかったが、情報発信はできたと考える。</p> <p>くじら資料館については、令和元年7月には来館者数が50万人を迎える予定なので、セレモニーや記念葉を発行するなど情報発信を行う。</p> <p>両施設とも内容の充実を図りつつ、地域住民・団体や観光部局をはじめ、他部署と連携して企画・事業・情報発信を行い、来館者の増加につなげていきたい。</p>
----------------------------	--

〔事業名〕 伝統文化継承事業

<p>外 部 評 価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業捕鯨が再開されたことをチャンスにして観光部局等と連携され、くじら資料館の来館者を増やしていく取り組みをされると良いと思う。</li> <li>・くじら資料館の来館者が50万人達成ということでも嬉しいことである。捕鯨用具など珍しい展示もあり、これからも情報発信を行い、多くの入館者があれば良いと思う。</li> <li>・村田清風記念館では、随時新しい試みをされ内容の充実が図られていて、今後も来館者の増加に期待ができる。</li> <li>・次世代へ残していくために、観光イベントなどと連携して活用していただきたい。</li> <li>・入館が増えるよう頑張っていたいただきたい。</li> </ul>
----------------	---